

群星沖縄・浦添総合病院プログラム

2024 年度

目次

1. 浦添総合病院の理念・基本方針	P. 4
2. 浦添総合病院の臨床研修理念・基本方針	P. 4
3. プログラムの名称と特徴	P. 5
4. 浦添総合病院の概要	P. 5
5. 研修管理委員会委員の構成	P. 7
6. プログラムの管理運営体制	P. 8
7. 募集定員及び選抜基準	P. 8
8. 処遇	P. 8
9. 教育課程	P. 9
10. 研修評価とフィードバック	P. 10
11. プログラム修了の認定	P. 10
12. 臨床研修の到達目標	P. 10
13. プログラム修了後のコース	P. 14
14. 臨床研修カリキュラム	P. 15
(1) 内科(厚生労働省が定める必修科目)	P. 15
(2) 救急(厚生労働省が定める必修科目)	P. 20
(3) 地域医療(厚生労働省が定める必修科目)	P. 21
(4) 外科(厚生労働省で定める必修科目)	P. 23
(5) 麻酔科(当院で定める必修科目)	P. 26
(6) 産婦人科(厚生労働省で定める必修科目)	P. 27
(7) 小児科(厚生労働省で定める必修科目)	P. 28
(8) 精神科(厚生労働省で定める必修科目)	P. 30
(9) 脳神経外科(当院で定める必修科目)	P. 31
(10) 一般外来(厚生労働省で定める必修科目)	P. 32
(11) 整形外科(選択科目)	P. 33
(12) 放射線科(選択科目)	P. 34
(13) 緩和ケア(選択科目)	P. 35
(14) 耳鼻咽喉科(選択科目)	P. 35
(15) 病理診断科(選択科目)	P. 36
(16) 心臓血管外科(選択科目)	P. 37
(17) 腎・泌尿器外科(選択科目)	P. 39

協力型臨床研修病院、臨床研修協力施設 P. 41

協力型臨床研修病院 P. 41

- ・社会医療法人友愛会 友愛医療センター
- ・医療法人おもと会 大浜第一病院
- ・沖縄医療生活協同組合 沖縄協同病院
- ・医療法人徳洲会 中部徳洲会病院
- ・社会医療法人敬愛会 中頭病院
- ・医療法人徳洲会 南部徳洲会病院
- ・医療法人卯の会 新垣病院
- ・沖縄県立精和病院
- ・医療法人一灯会 沖縄中央病院
- ・医療法人へいあん 平安病院
- ・医療法人社団志誠会 平和病院

- ・独立行政法人国立病院機構琉球病院
- ・医療法人陽和会 南山病院
- ・独立行政法人国立病院機構 沖縄病院
- ・医療法人八重瀬会 同仁病院
- ・沖縄県立南部医療センター・こども医療センター
- ・社会医療法人かりゆし会 ハートライフ病院
- ・琉球大学病院
- ・社会医療法人友愛会 豊見城中央病院

臨床研修協力施設 P. 44

- ・地方独立行政法人 那覇市立病院
- ・特定医療法人アガベ会 北中城若松病院
- ・医療法人エイチ・エス・アール 名嘉村クリニック
- ・特定医療法人アガベ会 ファミリークリニックきたなかぐすく
- ・統合医療センター クリニックぎのわん
- ・医療法人社団平成会 とうま内科
- ・西平医院
- ・医療法人清心会 徳山クリニック
- ・公立久米島病院
- ・薩摩川内市下甌手打診療所
- ・医療法人徳洲会 沖永良部徳洲会病院
- ・医療法人祥杏会 おもろまちメディカルセンター
- ・医療法人鳥伝白川会 ドクターゴン診療所
- ・医療法人鳥伝白川会 ドクターゴン四島診療所
- ・稲福内科医院
- ・伊江村立診療所
- ・医療法人太陽会 かりまた内科医院
- ・医療法人真成会 ゆずりは訪問診療所
- ・医療法人銀河 Az クリニック

1. 社会医療法人仁愛会の理念、浦添総合病院の基本方針

1) 理念

- ・地域住民のニーズを満たす保健・医療・福祉
『保健・医療・福祉の立場から社会的使命を果たす』
- ・信頼と人間性豊かな保健・医療・福祉
『肉体的、精神的に苦悩する利用者や家族の求めに応じられるサービスを提供し、安心を与える』
- ・働き甲斐のある職場
『生活の安定と仕事を通して自己成長を遂げる』
- ・仁愛会の職員であることが誇れる企業
『仁愛会が沖縄にあってよかったと県民に思われ、仁愛会で働いて嬉しいと職員が実感できる企業を目指す』

2) 基本方針

- ・私たちは、病病、病診連携や24時間救急の充実により、地域の中核病院としての役割を果たします。
- ・私たちは、チーム医療の展開や各センターの機能充実を図り、医療サービスの質の向上に努力します。
- ・私たちは、安全・安心をモットーに、心暖まる、やさしい医療を提供します。
- ・私たちは、インフォームドコンセントを含めての情報開示を積極的に行います。
- ・私たちは、より良い医療が行えるよう自己研鑽に努めます。
- ・私たちは、より良い医療者を育てます。そして、臨床研修指定病院として、より良い医師を育てるため充実した臨床研修を行います。

2. 浦添総合病院の臨床研修理念・基本方針

1) 臨床研修 理念

「地域住民のニーズを満たす保健・医療・福祉」「信頼と人間性豊かな保健・医療・福祉」を提供するという当法人の理念に基づき、チーム医療を実践し、患者様やそのご家族から真に信頼される医師、幅広い医療活動を通じ基本的な診療能力を身につけた総合臨床医を育成する。

2) 臨床研修 基本方針

1. 医療における基本的知識・技能・態度を習得する。
2. チーム医療の重要性を理解し、実践する。
3. 医療安全を理解し、実践する。
4. 地域医療の重要性を理解し、実践する。
5. 患者様やそのご家族また同僚から信頼される人格を養成する。
6. 群星プロジェクト7つのコンセプトを遵守する。

「群星沖縄」～7つのコンセプト

- (1)多数の研修病院が一致協力して明日の良き臨床家を育成する。
- (2)研修医にとってベストの教育環境を構築する。
- (3)エビデンスに基づく医療を実践するために学習する。
- (4)救急とプライマリケア研修を実践する。
- (5)世界中との医学医療交流を通じ Professional Development に力を注ぐ。
- (6)研修医の海外臨床留学制度を発展させる。
- (7)研修医と共に医療の質を向上させる。

3. プログラムの名称と特徴

1) プログラムの名称

群星沖縄・浦添総合病院プログラム

2) プログラムの特徴と目的

群星沖縄臨床研修プロジェクト参加病院というのが特徴の一つである。

このプロジェクトで4頁に記載している、「**群星沖縄**」～7つのコンセプトを掲揚していることが特筆される。研修もその趣旨に沿ったものとなるよう努力している。浦添総合病院のみでは十分でない領域について、あるいは希望に応じて、他の群星参加病院等の協力型臨床研修病院、臨床研修協力施設で研修することができる。当院は地域医療支援病院、DPC 特定病院群であり、ソフト、ハードとも市中病院としては高度な機能を有しており、診療とあわせ、将来の病院のあり方についても実地に研修することができる。浦添総合病院プログラムの特徴は、プライマリ・ケア研修の中でもとくに成人の急性期疾患のマネージメントに重きを置いているところである。

- ①年間約 2.1 万人越えの救急受診者があり、そのほとんどの症例の初期診療に研修医が関わる。ER からの入院患者数は年間約 4,000 人程度、救急車の搬送件数も年間 5,000 件にのぼる。ドクターカーやドクターヘリでの病院前救急診療の研修も可能である。
- ②急性の脳血管障害での緊急入院が年間 400 人前後である。当院脳神経外科研修では研修医は 4 週の脳神経外科研修期間内に約 70 人弱の入院症例の診療を経験できる。将来進んでゆく専門性に関わらず脳卒中の初期対応に長けた医師が育つ内容となっている。
- ③年間 3,255 件を超える手術件数があり、全身麻酔管理は 2,500 件を超える。麻酔科研修の 8 週内で 60 回以上の気管挿管を経験することがひとつの目標となっており、麻酔科研修後は、救急の場面でも気管挿管の準備や手技にはある程度の自信が持てる診療能力を修得している。
- ④内科研修は、新設された病院総合内科での研修がメインである。臓器を特定せずに多岐にわたる内科疾患患者が入院する。指示を受けて動く担当医ではなく、自ら患者から情報を取り考え調べ行動し、入院から退院まで管理する「主治医」として行動する。もちろん実際の主治医は常におり、また後期研修医との屋根瓦体制も構築され、診療のチェックとフィードバックは常に濃密に行われる。症例は極めて豊富であり、ネフローゼ症候群、脳梗塞、肺炎をはじめ胆癌患者、膠原病、血液疾患、不明熱まで幅広い。慢性期疾患のコントロール、高価値医療、ACP についても同時に学べる。
- ⑤当院は平成 13 年 6 月に地域医療支援病院の指定を受けた。地域での医療の役割分担に早くから着手しており、外来機能は紹介型の専門外来形態をとっている。一般的な外来機能は地域のクリニックに委ねているために、研修医の外来での診療の指導は専門外来では行わずほとんどが救急外来にて行われている。
- ⑥当院は平成 24 年から DPC 特定病院群（平成 30 年度呼称変更・高診療密度病院）に指定されている。多職種で高密度診療を担っており、研修医は高診療密度のなかで多職種から指導を受けることができる。
- ⑦精神科/小児科/産婦人科/地域医療は協力型臨床研修病院や臨床研修協力施設での院外研修となる。

4. 浦添総合病院の概要

1) プログラム責任者・副プログラム責任者

プログラム責任者：藏下要（研修管理委員長）

副プログラム責任者：金城俊一（研修管理副委員長）

2) 施設名：社会医療法人仁愛会 浦添総合病院

病総数：334床

標榜診療科：内科・循環器内科・呼吸器内科・消化器内科・消化器外科・小児科・外科・乳腺外科・肛門外科

整形外科・産科・婦人科・眼科・耳鼻咽喉科・脳神経外科・麻酔科・放射線科・形成外科

アレルギー科・リハビリテーション科・歯科・歯科口腔外科・心臓血管外科・呼吸器外科・食道外科・

神経内科・腎臓内科・救急科・病理診断科・腎・泌尿器科

学会認定施設（2023年4月時点）

No	施設名
1	日本集中治療医学会専門医研修施設
2	日本病理学会研修登録施設
3	日本呼吸器学会認定施設
4	日本心血管インターベンション治療学会研修施設（CVIT）
5	呼吸器外科専門医制度関連施設
6	日本外科学会外科専門医制度修練施設
7	日本内科学会認定医制度教育病院
8	日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院
9	日本救急医学会救急科専門医指定施設
10	日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度認定施設
11	日本消化器病学会認定施設
12	日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
13	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
14	日本形成外科学会認定施設
15	内分泌・甲状腺外科専門医制度認定施設
16	日本消化器外科学会専門医修練施設
17	日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関
18	日本麻酔科学会麻酔科認定病院
19	肝胆膵外科高度技能専門医修練施設 B
20	日本消化器内視鏡学会指導施設
21	日本大腸肛門病学会認定施設
22	不整脈専門医研修施設
23	日本乳癌学会認定施設
24	日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会／乳房再建術（インプラント・エキスパンダー）実施施設
25	日本糖尿病学会認定教育施設
26	日本輸血細胞治療学会認定 認定輸血検査技師制度指定施設
27	日本病院総合診療医学会 認定施設
28	日本がん治療認定医機構認定研修施設
29	日本整形外科学会認定医制度研修施設
30	日本航空医療学会施設
31	日本消化管学会胃腸科指導医施設
32	日本肝臓学会認定施設
33	歯科医師臨床研修協力施設
34	基幹型臨床研修指定病院
35	日本脳神経外科学会 専門医研修プログラム研修施設
36	日本禁煙学会教育認定施設
37	日本胆道学会認定指導医制度
38	日本膵臓学会認定指導施設
39	日本緩和医療学会認定研修施設
40	浅大動脈ステントグラフト実施施設
41	日本内分泌学会認定教育施設
42	日本超音波医学学会認定超音波専門医制度研修施設
43	心臓血管外科専門医認定基関施設
44	日本脈管学会認定研修施設
45	日本カプセル視鏡学会 指導施設
46	下肢静脈瘤血管内治療実施施設
47	日本泌尿器学会教育認定施設
48	日本心臓血管麻酔認定施設

5. 研修管理委員会 委員の構成

委員会規程名称	所 属	役 職 名	氏 名
※カッコ内は、医師法第16条の2第1項に規程する臨床研修に関する省令で定められた名称			
研修管理委員長・プログラム責任者 (プログラム責任者)	社会医療法人 仁愛会 浦添総合病院	副院長／乳腺センター長	藏下 要
研修管理副委員長・副プログラム責任者 (副プログラム責任者)	社会医療法人 仁愛会 浦添総合病院	地域医療支援科部長	金城 俊一
	社会医療法人 仁愛会 浦添総合病院	循環器内科副院長	千葉 卓
病院長(病院の管理者)	社会医療法人 仁愛会 浦添総合病院	病院長	伊志嶺 朝成
副院長	社会医療法人 仁愛会 浦添総合病院	副院長／肝臓内科部長	仲吉 朝邦
医療安全管理者	社会医療法人 仁愛会 浦添総合病院	安全管理室(部長格)代理	又吉 広見
事務長(事務部門の責任者)	社会医療法人 仁愛会 浦添総合病院	病院事務部部长(事務長)	宮城 吉晴
研修管理副委員長 ※藤岡医師は、麻酔科代表も担当。	社会医療法人 仁愛会 浦添総合病院	麻酔科部長/手術部部長	藤岡 照久
	社会医療法人 仁愛会 浦添総合病院	呼吸器外科副部長	谷口 春樹
必修科となっている各診療科代表1名 (内科、外科、救急集中治療部、 麻酔科、整形外科、脳神経外科)	社会医療法人 仁愛会 浦添総合病院	病院長補佐/集中治療・重症管理部長/病院総合内科部長(兼任)	那須 道高
	社会医療法人 仁愛会 浦添総合病院	外科主任部長 / 内視鏡外科部長(兼任)	亀山 眞一郎
※内科は仲吉副院長、金城研修管理副委員長もいるため、他医師は配置しない。(第55回研修運営委員会にて決定。)	社会医療法人 仁愛会 浦添総合病院	脳神経外科副部長	伊藤 公一
臨床研修指導者	社会医療法人 仁愛会 浦添総合病院	看護部長	新垣 和美
	社会医療法人 仁愛会 浦添総合病院	薬剤部主任	宮里 弥篤
	社会医療法人 仁愛会 浦添総合病院	生理系検査科科長代行	喜舎場 良香
	社会医療法人 仁愛会 浦添総合病院	診療放射線科科長	紺野 能稔
	社会医療法人 仁愛会 浦添総合病院	リハビリテーション部科長代行	高安 信吾
	社会医療法人 仁愛会 浦添総合病院	ME科科長	兒玉 健志
	社会医療法人 仁愛会 浦添総合病院	栄養管理サービス部科長	仲間 清美
	社会医療法人 仁愛会 浦添総合病院	感染防止対策室室長	原國 政直
	社会医療法人 仁愛会 浦添総合病院	医療相談・医療連携支援室かけはし室長	喜納 薫
	社会医療法人 仁愛会 浦添総合病院	医事課課長	安里 亮
	社会医療法人 仁愛会 浦添総合病院	診療部支援課課長	譜久村 由美子
二年度次初期臨床研修医代表	社会医療法人 仁愛会 浦添総合病院	初期研修医2年目	尾茂田 眞榮
一年次初期臨床研修医代表	社会医療法人 仁愛会 浦添総合病院	初期研修医1年目	大城 千雅記
チーフ医師代表 ※別紙参照	社会医療法人 仁愛会 浦添総合病院	チーフ医師代表	別紙参照
委員長が指名した者	社会医療法人 仁愛会 浦添総合病院	人事部部長	中松 典子
外部からの有識者 (医師その他の医療関係者)	一般社団法人 群星沖縄臨床研修センター	群星沖縄臨床研修センター事務局長	宮里 達哉
研修実施責任者 (研修実施責任者)	医療法人エイチ・エス・アール 名嘉村クリニック	常任理事・統括副院長	名嘉村 敬
	医療法人卯の会 新垣病院	内科部長	佐藤 香代子
	医療法人おもと会 大浜第一病院	集中治療科/心臓血管外科 科長	岡田 祥一
	医療法人へいあん 平安病院	医師	渡嘉敷 いつみ
	医療法人一灯の会沖縄中央病院	副院長	高良 聖治
	医療法人徳洲会 中部徳洲会病院	院長・透析センター長	大城 吉則
	医療法人徳洲会 南部徳洲会病院	総合診療科医長	今村 恵
	社会医療法人敬愛会 中頭病院	副院長	新里 敬
	沖縄医療生活協同組合 沖縄協同病院	副院長/総合診療部部長	高原 安彦
	社会医療法人友愛会 友愛医療センター	部長	嘉数 真教
	医療法人社団志誠会 平和病院	副院長	宮城 則孝
	医療法人祥杏会 おもろまちメディカルセンター	副院長/内科部長	久保田 徹
	医療法人清心会 徳山クリニック	院長	徳山 清之
	医療法人八重瀬会 同仁病院	整形外科 医長	比嘉 清志郎
	稲福内科医院	院長	稲福 徹也
	沖縄県立精和病院	精神科部長	山川 宗一郎
	西平医院	院長	西平 守樹
	統合医療センター クリニックぎのわん	院長	天願 勇
	特定医療法人 アガベ会 北中城若松病院	理事長	満波 淳子
	特定医療法人アガベ会 ファミリークリニックきたなかぐすく	院長	山入端 浩之
	独立行政法人国立病院機構 沖縄病院	内科部長	仲本 敦
	独立行政法人国立病院機構 琉球病院	院長	福治 康秀
	医療法人社団 平成会 とうま内科	院長	當間 茂樹
	琉球大学病院	救急部長	梅村 武寛
	沖縄県立南部医療センター・こども医療センター	小児科医長	利根川 尚也
	公立久米島病院	管理者・病院長	並木 宏文
	医療法人鳥伝白川会 ドクターゴン診療所	理事長	泰川 恵吾
	医療法人鳥伝白川会 ドクターゴン四島診療所	院長	越川 雅宏
	薩摩川内市下飯手打診療所	副所長	室原 誉伶
	社会医療法人かりゆし会 ハートライフ病院	副院長/呼吸器内科部長	普天間 光彦
	伊江村立診療所	所長	阿部 好弘
	医療法人太陽会 かりまた内科医院	院長	狩俣 陽一
	地方独立行政法人那覇市立病院	院長	外間 浩
	医療法人銀河 Azクリニック	副院長	富原 匠
	医療法人真成会 ゆずりは訪問診療所	理事長・院長	屋宜 亮兵
	医療法人陽和会 南山病院	理事長・院長	譜久原 弘
	社会医療法人友愛会 豊見城中央病院	医師	比嘉 盛文
	医療法人徳洲会 沖永良部徳洲会病院	病院長	玉榮 剛

6. プログラムの管理運営体制

年に3回の研修管理委員会を開催し、研修体制を評価するとともに、必要に応じてプログラム及び運営上の諸々の問題点を検討し、修正すべき点を協議立案し研修管理委員会の承認の上で、翌年更新、施行する。新しく承認されたプログラムは公表し、関係者・希望者に配布する。

7. 募集定員及び選抜基準

- 1) 定員： 定員 12 名とする
- 2) 選抜方法： 書類審査、 研修管理委員長、チーフレジデント、事務長、看護部や検査部門等による面接評価点および実習評価点（実習担当指導医、研修医らによる評価）の合計等から協議を行う。
- 3) 応募書類： 履歴書、志望動機、卒業（見込）証明書、見学感想文
- 4) 選考方法： 書類審査及び面接
- 5) 募集及び選考時期： 募集 4月1日～
選考 9月1日～
- 6) マッチング参加有無： 参加する

8. 処遇

- 1) 常勤または非常勤の別： 常勤とする
- 2) 研修手当、勤務時間及び休暇に関する事項
勤務時間： 午前8時30分 ～ 午後5時30分（休憩時間：1時間）
研修手当及び休暇： 1年次 月額 300,000円 賞与なし 有給休暇 12日（夏季休暇含む） 年未年始休暇有
2年次 月額 341,000円 賞与なし 有給休暇 20日（夏季休暇含む） 年未年始休暇有
※時間外手当は基本手当に含む。当直手当/緊急呼出勤務手当は別途支給。
- 3) 時間外勤務及び当直に関する事項
時間外勤務： 有 / 当直： 有（約6-8回/月） ※アルバイトは禁止する。
- 4) 研修医のための社宅及び病院内の個室の有無
社宅： 有（当院社宅もしくは住居手当（上限 50,000円））
病院内の個室： 有（研修医カンファレンスルーム）
- 5) 保険： 公的医療保険（協会けんぽ）/ 公的年金保険（厚生年金）/ 労働者災害補償保険法の適用/ 雇用保険有
- 6) 健康管理に関する事項
健康診断： 年2回
- 7) 医師賠償責任保険に関する事項
個人加入（任意）自己負担とする
- 8) 外部の研修活動
病院負担で年1回の学会参加 / 発表演者の場合年5回まで病院負担

9. 教育課程

1) 所属及び研修医配置予定

初期研修医の2年間は臨床研修センター所属とし、研修管理委員長を研修責任者とする。

下記はローテーション（例）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次	内科① (OJオリエンテーション)	内科②	内科③	救急ER	選択科	麻酔科		外科		産婦人科	選択(院内)	精神科
2年次	内科④	内科⑤	選択(院内)	脳神経外科	小児科	内科⑥	地域医療	内科⑦	救急ER	選択(院内)	選択科	救急選択

必修科目

内科 (28週)	2年間で28週必修研修。 (4月上旬にオリエンテーションを行う。)
救急 (12週)	2年間で12週必修研修。
麻酔科 (8週)	2年間で8週必修研修。
外科 (8週)	以下より選択し、2年間で8週必修研修。 消化管外科、肝胆膵外科、呼吸器外科
脳神経外科 (4週)	2年間で4週必修研修。
地域医療 (4週)	2年間で4週必修研修。 協力型臨床研修病院（臨床協力施設）より研修先を選択し、院外での研修（在宅研修含む。）
精神科 (4週)	2年間で4週必修研修。
小児科 (4週)	2年間で4週必修研修。 協力型臨床研修病院（臨床協力施設）より研修先を選択し、院外での研修。
産婦人科 (4週)	2年間で4週必修研修。 協力型臨床研修病院（臨床協力施設）より研修先を選択し、院外での研修。
選択科 ※院内 (12週)	2年間で12週は、院内より研修先を選択可能。
選択科 ※院外 (8週)	2年間で8週は、院内もしくは協力型臨床研修病院（臨床協力施設）より研修先を選択可能。
外来研修 (4週)	2年間で4週必修研修。

2) 研修内容と到達目標

各科臨床研修カリキュラム参照

3) 4月初日よりオリエンテーションを開始し、その後各診療科へ配置とする。

3月末に研修修了式を行い、研修修了証を授与する。

4) 指導体制

- ①内科、外科、救急集中治療部、脳神経外科については研修医1～2名に対し、原則として上級医と指導医とでチームを作り、研修医1人当たり5人前後の患者を受け持ち診療に当たると共に、ベッドサイドでの実践的な臨床指を受ける。各診療科の責任者は全般的な研修指導監督を行う。
- ②麻酔科、放射線科については、研修医1名に対し、上級医もしくは指導医が直接指導する。
- ③産婦人科、小児科、精神科、地域医療については、協力型臨床病院または、臨床研修協力施設より選択する。研修医1～2名に対し、上級医もしくは指導医1名をおく。

5) 当直・救急診療

研修医1名に対し、3年次以上の上級医、又は指導医が付き研修医は診療に参加しつつ指導を受ける。

10. 研修評価とフィードバック

研修評価は、研修に関わる多くの職種が多面的に評価しフィードバックする。各々の診療科のローテーション終了の時点で、指導医はEPOC（オンライン卒後臨床研修評価システム）と研修医手帳を用いて研修医の自己評価結果を点検し、到達目標達成を援助すると共に、研修管理（運営）委員会に対して研修医の自己評価結果を実際の研修実績、指導医からみた到達目標の達成度について報告する。看護師、検査技師、薬剤師、事務など関与したコメディカルも評価用紙を用いて研修医を評価する。指導医も研修医により評価される。研修管理委員会はすべてのデータを慎重に検討し、研修修了の認定を行う。

進捗状況： 経験すべき手技や症例は、経験するたびにEPOCと「研修医手帳（または同様のもの）」を用いて自ら管理し、経験状況の進捗管理を行う。

11. プログラム修了の認定

厚生労働省が示す初期研修医の到達目標をクリアすることで修了認定とする。

経験すべき手技や症例は、経験するたびにEPOCと研修医手帳を用いて管理する。ローテーションが終わるたびに、各研修医は自己評価を行い、指導医からの評価とフィードバックを受ける。2年修了時に、各々の研修医の研修実績を研修管理委員会にて報告を行う。毎年3月に行われる研修管理委員会（あるいは臨時開催される研修管理委員会）での最終検討で認められれば、初期臨床研修プログラムを修了したことを明記した臨床研修修了書を授与する。

12. 臨床研修の到達目標

医師臨床研修制度によって2年間の臨床研修必修化に定められた研修内容に準拠して、浦添総合病院における臨床研修を定めるものである。経験目標などに関しては、厚生労働省の定める目標を十分に満たす内容とする。

1) 臨床研修の基本理念（医師法第一六条の二第一項に規定する臨床研修に関する省令）

臨床研修は、医師が、医師としての人格をかん養し、将来専門とする分野にかかわらず、医学および医療の果たすべき社会的役割を認識しつつ、一般的な診療において頻繁に関わる負傷又は疾病に適切に対応できるよう、基本的な診療能力を身に付けることのできるものでなければならない。

医師は、病める人の尊厳を守り、医療の提供と公衆衛生の向上に寄与する職業の重大性を深く認識し、医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）及び医師としての使命の遂行に必要な資質・能力を身に付けなくてはならない。医師としての基盤形成の段階にある研修医は、基本的価値観を自らのものとし、基本的診療業務ができるレベルの資質・能力を修得する。

2) 到達目標

A. 医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）

1. 社会的使命と公衆衛生への寄与

社会的使命を自覚し、説明責任を果たしつつ、限りある資源や社会の変遷に配慮した公正な医療の提供及び公衆衛生の向上に努める。

2. 利他的な態度

患者の苦痛や不安の軽減と福利の向上を最優先し、患者の価値観や自己決定権を尊重する。

3. 人間性の尊重

患者や家族の多様な価値観、感情、知識に配慮し、尊敬の念と思いやりの心を持って接する。

4. 自らを高める姿勢

自らの言動及び医療の内容を省察し、常に資質・能力の向上に努める。

B. 資質・能力

1. 医学・医療における倫理性

診療、研究、教育に関する倫理的な問題を認識し、適切に行動する。

- ① 人間の尊厳を守り、生命の不可侵性を尊重する。
- ② 患者のプライバシーに配慮し、守秘義務を果たす。
- ③ 倫理的ジレンマを認識し、相互尊重に基づき対応する。
- ④ 利益相反を認識し、管理方針に準拠して対応する。
- ⑤ 診療、研究、教育の透明性を確保し、不法行為の防止に努める。

2. 医学知識と問題対応能力

最新の医学及び医療に関する知識を獲得し、自らが直面する診療上の問題に対して、科学的根拠に経験を加味して解決を図る。

- ① 頻度の高い症候について、適切な臨床推論のプロセスを経て、鑑別診断と初期対応を行う。
- ② 患者情報を収集し、最新の医学的知見に基づいて、患者の意向や生活の質に配慮した臨床判断を行う。
- ③ 保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案し、実行する。

3. 診療技能と患者ケア

臨床技能を磨き、患者の苦痛や不安、考え・意向に配慮した診療を行う。

- ① 患者の健康状態に関する情報を、心理・社会的側面を含めて、効果的かつ安全に収集する。
- ② 患者の状態に合わせた、最適な治療を安全に実施する。
- ③ 診療内容とその根拠に関する医療記録や文書を、適切かつ遅滞なく作成する。

4. コミュニケーション能力

患者の心理・社会的背景を踏まえて、患者や家族と良好な関係性を築く。

- ① 適切な言葉遣い、礼儀正しい態度、身だしなみで患者や家族に接する。
- ② 患者や家族にとって必要な情報を整理し、分かりやすい言葉で説明して、患者の主体的な意思決定を支援する。
- ③ 患者や家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握する。

5. チーム医療の実践

医療従事者をはじめ、患者や家族に関わる全ての人々の役割を理解し、連携を図る。

- ① 医療を提供する組織やチームの目的、チームの各構成員の役割を理解する。
- ② チームの構成員と情報を共有し、連携を図る。

6. 医療の質と安全管理

患者にとって良質かつ安全な医療を提供し、医療従事者の安全性にも配慮する。

- ① 医療の質と患者安全の重要性を理解し、それらの評価・改善に努める。
- ② 日常業務の一環として、報告・連絡・相談を実践する。
- ③ 医療事故等の予防と事後の対応を行う。
- ④ 医療従事者の健康管理（予防接種や針刺し事故への対応を含む。）を理解し、自らの健康管理に努める。

7. 社会における医療の実践

医療の持つ社会的側面の重要性を踏まえ、各種医療制度・システムを理解し、地域社会と国際社会に貢献する。

- ① 保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解する。

- ② 医療費の患者負担に配慮しつつ、健康保険、公費負担医療を適切に活用する。
- ③ 地域の健康問題やニーズを把握し、必要な対策を提案する。
- ④ 予防医療・保健・健康増進に努める。
- ⑤ 地域包括ケアシステムを理解し、その推進に貢献する。
- ⑥ 災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要に備える。

8. 科学的探究

医学及び医療における科学的アプローチを理解し、学術活動を通じて、医学及び医療の発展に寄与する。

- ① 医療上の疑問点を研究課題に変換する。
- ② 科学的研究方法を理解し、活用する。
- ③ 臨床研究や治験の意義を理解し、協力する。

9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

医療の質の向上のために省察し、他の医師・医療者と共に研鑽しながら、後進の育成にも携わり、生涯にわたって自律的に学び続ける。

- ① 急速に変化・発展する医学知識・技術の吸収に努める。
- ② 同僚、後輩、医師以外の医療職と互いに教え、学びあう。
- ③ 国内外の政策や医学及び医療の最新動向（薬剤耐性菌やゲノム医療を含む。）を把握する。

C. 基本的診療業務

コンサルテーションや医療連携が可能な状況下で、以下の各領域において、単独で診療ができる。

1. 一般外来診療

頻度の高い症候・病態について、適切な臨床推論プロセスを経て診断・治療を行い、主な慢性疾患については継続診療ができる。

2. 病棟診療

急性期の患者を含む入院患者について、入院診療計画を作成し、患者の一般的・全身的な診療とケアを行い、地域医療に配慮した退院調整ができる。

3. 初期救急対応

緊急性の高い病態を有する患者の状態や緊急度を速やかに把握・診断し、必要時には応急処置や院内外の専門部門と連携ができる。

4. 地域医療

地域医療の特性及び地域包括ケアの概念と枠組みを理解し、医療・介護・保健・福祉に関わる種々の施設や組織と連携できる。

3) 経験すべき疾患、症候、臨床手技

A. 経験すべき症候 – 29 症候 –

外来又は病棟において、下記の症候を呈する患者について、病歴、身体所見、簡単な検査所見に基づく臨床推論と、病態を考慮した初期対応を行う。

- ① ショック
- ② 体重減少・るい瘦
- ③ 発疹
- ④ 黄疸
- ⑤ 発熱
- ⑥ もの忘れ
- ⑦ 頭痛
- ⑧ めまい

- ⑨ 意識障害・失神
- ⑩ けいれん発作
- ⑪ 視力障害
- ⑫ 胸痛
- ⑬ 心停止
- ⑭ 呼吸困難
- ⑮ 吐血・咯血
- ⑯ 下血・血便
- ⑰ 嘔気・嘔吐
- ⑱ 腹痛
- ⑲ 便通異常（下痢・便秘）
- ⑳ 熱傷・外傷
- ㉑ 腰・背部痛
- ㉒ 関節痛
- ㉓ 運動麻痺・筋力低下
- ㉔ 排尿障害（尿失禁・排尿困難）
- ㉕ 興奮・せん妄
- ㉖ 抑うつ
- ㉗ 成長・発達の障害
- ㉘ 妊娠・出産
- ㉙ 終末期の症候

B. 経験すべき疾病・病態 – 26 疾病・病態 –

外来又は病棟において、下記の疾病・病態を有する患者の診療にあたる。

- ① 脳血管障害
- ② 認知症
- ③ 急性冠症候群
- ④ 心不全
- ⑤ 大動脈瘤
- ⑥ 高血圧
- ⑦ 肺癌
- ⑧ 肺炎
- ⑨ 急性上気道炎
- ⑩ 気管支喘息
- ⑪ 慢性閉塞性肺疾患（COPD）
- ⑫ 急性胃腸炎
- ⑬ 胃癌
- ⑭ 消化性潰瘍
- ⑮ 肝炎・肝硬変
- ⑯ 胆石症
- ⑰ 大腸癌
- ⑱ 腎盂腎炎
- ⑲ 尿路結石
- ⑳ 腎不全
- ㉑ 高エネルギー外傷・骨折
- ㉒ 糖尿病
- ㉓ 脂質異常症

- ②④ うつ病
- ②⑤ 統合失調症
- ②⑥ 依存症（ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博）

経験すべき症候及び経験すべき疾病・病態の研修を行ったことの確認は、日常診療において作成する病歴要約に基づくこととし、病歴、身体所見、検査所見、アセスメント、プラン（診断、治療、教育）、考察等を含むこと。

※病歴要約とは、日常業務において作成する外来または入院患者の医療記録を要約したものであり、具体的には退院時要約、診療情報提供書、患者申し送りサマリー、転科サマリー、週間サマリー等の利用を想定している。病歴要約には、病歴、身体所見、検査所見、アセスメント、プラン（診断、治療、教育）、考察等を含むことが必要である。病歴要約に記載された患者氏名、患者 ID 番号等は同定不可能とした上で記録を残す。「経験すべき疾病・病態」の中の少なくとも1症例は、外科手術に至った症例を選択し、病歴要約には必ず手術要約を含めることが必要である。

C. 経験すべき臨床手技

基本的手技の適応を決定し、実施するために、

- ① 気道確保を実施できる。
- ② 人工呼吸を実施できる。（バッグバルブマスクによる徒手換気を含む。）
- ③ 胸骨圧迫を実施できる。
- ④ 圧迫止血法を実施できる。
- ⑤ 包帯法を実施できる。
- ⑥ 注射法（皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保、中心静脈確保）を実施できる。
- ⑦ 採血法（静脈血、動脈血）を実施できる。
- ⑧ 穿刺法（腰椎）を実施できる。
- ⑨ 穿刺法（胸腔、腹腔）を実施できる。
- ⑩ 導尿法を実施できる。
- ⑪ ドレーン・チューブ類の管理ができる。
- ⑫ 胃管の挿入と管理ができる。
- ⑬ 局所麻酔法を実施できる。
- ⑭ 創部消毒とガーゼ交換を実施できる。
- ⑮ 簡単な切開・排膿を実施できる。
- ⑯ 皮膚縫合法を実施できる。
- ⑰ 軽度の外傷・熱傷の処置を実施できる。
- ⑱ 気管挿管を実施できる。
- ⑲ 除細動を実施できる。
- ⑳ 超音波検査を実施できる。

13. プログラム修了後のコース

専門研修は、基幹施設として、4領域のプログラム（救急・内科・外科・総合診療）で専門研修が可能である。救急専門研修は、救命救急センターとして、プレホスピタルケア（ドクターヘリ、ドクターカー）、ER、重症管理まで連続性のある救急集中治療を経験することができる。また、沖縄県内（離島含む）の二次・三次救急病院や県外の救命救急センター、大学病院等とも連携しており、専攻医一人ひとりの将来像に応じてローテートできる仕組みとなっている。

内科・総合診療研修では、令和元年4月1日より「病院総合内科」という新しい診療科を中心に、多疾患や様々な背景をもつ患者の診療を行う「ホスピタリスト」の育成に力を入れており、専攻医が主治医として活躍している。総合診療力の高い指導医や各専門医の指導を受けつつ、患者診療のみならず、医療の質の改善、研修医教育、チーム医療の実践の中核となっている。病院総合内科所属の期間でほぼ全ての専門医症例を経験が可能である。また、サブスペシャリティーを見据えた専門性の高い研修も選択可能で、各内科診療科を中心にローテートする研修も充実している。

上記、プログラム以外にも、外科や整形外科をはじめとした領域で、連携施設（ホームホスピタルプログラム）として、毎年専攻医の受入実績がある。また、新専門医制度のプログラムに属さず、1つの領域に囚われず各診療科をローテートする、いわゆる「モトリアム研修」も受入可能である。

5年間の研修期間を優秀な実績で修了すれば、6年次以降はスタッフとして継続採用される。

14. 臨床研修カリキュラム

(1) 内科（必修科目）

※4月上旬にオリエンテーションを実施

研修の方針

2年間で、合計28週の必修研修を行う。

指導医と共に常時10名程度の受け持ち患者を持ち診療にあたる。

◇G I O（一般目標）

主たる担当医として患者の背景を把握し、患者の病態をプロとして追及することで、患者にとって何がベストかを自ら考え、質の高い医療を提供する。

◇S B O（個別行動目標）

●病院総合内科

- 1) Admission note を詳細な患者背景、病態解釈、予防医療（肺炎、虚弱高齢栄養、転倒予防、認知機能等評価）を含めて適切に作成する。
- 2) 日々の診療録を問題志向型システムの下、SOAP形式で遅滞なく記載する。
- 3) 入院の主疾患のみではなく併存疾患にも目を向け、入院中に可能な評価、内服調整を行う。
- 4) エビデンスに基づいた標準的な診断・治療を把握し患者に適応できる。
- 5) 適切なタイミングで指導医、各専門科にコンサルトを行う。
- 6) グループ内での情報共有を密に行う。
- 7) 多職種が円滑かつ密に関わり、患者に対して質の高い医療を提供する。
- 8) 学会発表、論文投稿などを通じて、学術活動についての知識・技能を身につける。
- 9) 可及的に、医療安全・医療の質の改善に関する活動に参加する。
- 10) 診療にあたり、適切な医療情報へすみやかにアクセスし、患者に適応できるかどうか吟味する。

★必修の枠でローテートした後に選択枠でローテートする場合は、下記の通りとする。

●呼吸器内科

- 11) 呼吸器疾患を理解し、疾患に直面した場合にきちんと評価し治療できるようになる。
- 12) 呼吸器疾患を理解する。
(呼吸不全、ARDS、感染症、アレルギー疾患、閉塞性障害、拘束性障害、肺癌、胸腔・胸膜疾患等)
- 13) プライマリ・ケアを理解する。
(疾患背景・家族背景の把握、ADL、リハビリテーション、栄養、認知症、生活環境、医療保険や介護保険)
- 14) 検査を理解する。
(血液ガス分析、呼吸機能検査、胸水、胸部レントゲン写真、胸部CT、喀痰グラム、チールニールセン染色、気管支鏡、仮想気管支鏡、超音波気管支鏡)
- 15) 治療を理解する。

(I 型呼吸不全と II 型慢性呼吸不全の酸素療法の違い、吸入療法の使い分け、ステロイド投与量と期間及びステロイド療法中の管理、抗菌薬の選択と使用期間等、肺がん治療の概要・特に irAE:免疫療法関連副反応)

- 16) ガイドラインを把握する。
気管支喘息 (GINA) 、 COPD (GOLD) 、 間質性肺炎、 肺高血圧症
- 17) 必須図書を活用する。
- 18) 胸部レントゲン勉強会、呼吸器疾患同好会、沖縄県医学会、内科学会、呼吸器疾患学会、肺癌療法、CPCカンファレンス等で発表する。
- 19) サマリー15 症例を記載する。

●循環器内科

- 20) 基本的な心電図の理解 (不整脈、虚血性心疾患等)
- 21) 心筋梗塞の初期治療から慢性期管理 (薬物療法等) の習得
- 22) 心不全の初期治療から慢性期管理 (薬物療法等) の習得
- 23) 不整脈の基本的な対応、治療
- 24) 受け持ち患者のサマリーを作成
- 25) 診療情報提供書作成
- 26) 学会、研究会の積極的な参加、発表
- 27) 循環器領域の基本的な手技の習得 (動脈穿刺、中心静脈穿刺等)

●消化器内科

- 28) 一般的な消化器救急疾患の初期対応を学ぶ (院内コンサルトの当番)
- 29) 腹部の基本的な診察から・鑑別診断が行える
- 30) 急性期・慢性期疾患への適切な対応が行える
- 31) 一般的な消化器疾患の内視鏡診断・治療を簡単に学ぶ
- 32) 入院受持ち患者 1 年目 5 人 / 2 年目 10 人を目標とする
- 33) 学会発表 (県医学会・九州地方会)
- 34) 県内研究会への参加・発表

●糖尿病内分泌科

- 35) 代謝内分泌疾患に特有な病歴聴取ができ、身体診察を行うことができる。
- 36) 糖尿病の診断基準、病型分類、合併症・併発症、特有な検査を理解し、評価できる。
- 37) 食事療法や運動療法の理論を理解し、指示を出すことができる。
- 38) インスリンや経口血糖降下薬の理論を理解し、治療薬として処方できる。
- 39) 低血糖の病態を理解し、対応することができる。
- 40) 代謝疾患に対して、適切な患者指導を行うことができる。
- 41) 糖尿病チームの一員として、コメディカルや他科との連携、情報伝達ができる。

●腎臓内科

- 42) 急性腎不全 AKI の基本を学ぶこと。
- 43) 透析患者の特徴を学ぶ。
- 44) ネフローゼ症候群、糖尿病性腎症、IgA 腎症についての理解を深める。
- 45) CKD 進行予防としての降圧剤の使い方を学ぶ。
- 46) エコーや IVC 測定などの使用方法を学ぶ。
- 47) 中心静脈や透析用カテーテルの挿入の手技を学ぶ。

●神経内科

- 48) 基本的な神経学的所見を取れるようになる。
- 49) 神経学的所見を元にした鑑別疾患の挙げ方を学ぶ。
- 50) 神経学的所見チャートを記載できるようになる。
- 51) 社会資源の種類と、その問い合わせができるようになる。

◇ L S (研修方略)

1. グループ制の中で、指導の下で主たる担当医として、患者の診療、方針の決定を行う。
2. 入院患者を担当し、指導医や上級医と共に、毎日朝と夕方に回診を行う。
3. 各種カンファレンス/勉強会に参加する。
4. 指導を受けながら継続的な外来診療を行う。
 - 内科 月-金 8:00 研修医教育カンファレンス
 - ・病院総合内科
 - 月曜日 循環器内科カンファレンス (16:30-)
 - 火曜日 入退院支援 (他職種協働) カンファレンス (午前・午後 担当チーム毎)
 - 神経内科カンファレンス (14:00-)
 - 膠原病・腎臓内科カンファレンス (午後)
 - 水曜日 病院総合内科カンファレンス (16:30-)
 - 消化器内科カンファレンス (17:00-)
 - 木曜日 薬剤部ポリファーマシーカンファレンス (13:15-)
 - 呼吸器内科カンファレンス (16:00-)
 - 金曜日 糖尿病・内分泌内科カンファレンス (14:00-)
 - ・呼吸器内科
 - 月曜日 病理カンファレンス、レントゲンカンファレンス
 - 火曜日 胸部レントゲンカンファレンス
 - 水曜日 入退院支援 (他職種協働) カンファレンス、気管支鏡、CT枝読みカンファレンス
 - 木曜日 気管支鏡検査
 - ・消化器内科
 - 月-金 朝カンファレンス
 - 火曜日 消化器病センター内科・外科カンファレンス
 - ・糖尿病内分泌科
 - 月曜日 総回診
 - 水曜日 勉強会
 - ・循環器内科
 - 月-金 カテ後カンファレンス
 - 火曜日 入退院支援 (他職種協働) カンファレンス
 - 水曜日 抄読会
 - ・腎臓内科
 - 月-土 ミニレクチャー
 - ・神経内科
 - 月-土 科内カンファレンス (方針確認 8:45~9:00) (振り返り 17:00~17:20)
5. 学会に参加/発表する。内科学会総会など多数の発表、参加を行う。

スケジュール

●病院総合内科

	月	火	水	木	金	土
午前	研修医教育カンファレンス 回診 病棟業務	研修医教育カンファレンス 回診 病棟業務	研修医教育カンファレンス 回診 病棟業務	研修医教育カンファレンス 回診 病棟業務 NST回診	研修医教育カンファレンス 回診 病棟業務	回診 病棟業務
午後	回診 循環器内科カンファレンス 病棟業務	回診 入退院支援カンファレンス 神経内科カンファレンス 膠原病・腎臓内科カンファレンス 病棟業務	回診 入退院支援カンファレンス 病院総合内科カンファレンス 消化器内科カンファレンス 病棟業務	回診 薬剤部/リファーマシーカンファレンス 呼吸器内科カンファレンス 病棟業務	回診 糖尿病・内分泌内科カンファレンス 病棟業務	回診 病棟業務

●呼吸器内科

	月	火	水	木	金	土
午前	研修医教育カンファレンス 回診 病棟業務	研修医教育カンファレンス 回診 病棟業務	研修医教育カンファレンス 回診 病棟業務	研修医教育カンファレンス 回診 気管支鏡検査(呼内) NST回診	研修医教育カンファレンス 回診 病棟業務	回診 病棟業務
午後	回診 病棟業務 病理カンファレンス レントゲンカンファレンス	回診 病棟業務	回診 入退院支援(他職種協働) カンファレンス リハビリカンファレンス 気管支鏡 CT・枝読みカンファレンス レントゲンカンファレンス	回診 病棟業務	回診 病棟業務	

●消化器内科

	月	火	水	木	金	土
午前	研修医教育カンファレンス 消化器内科朝カンファレンス 回診 病棟業務・内視鏡業務	研修医教育カンファレンス 消化器内科朝カンファレンス 回診 病棟業務・内視鏡業務	研修医教育カンファレンス 消化器内科朝カンファレンス 回診 病棟業務・内視鏡業務	研修医教育カンファレンス 消化器内科朝カンファレンス 回診 病棟業務・内視鏡業務	研修医教育カンファレンス 消化器内科朝カンファレンス 回診 病棟業務・内視鏡業務	消化器内科朝カンファレンス 回診 病棟業務・内視鏡業務
午後	病棟業務・内視鏡業務 回診	病棟業務・内視鏡業務 回診 内科・外科カンファレンス	入退院支援(他職種協働) カンファレンス 回診	病棟業務・内視鏡業務 回診	病棟業務・内視鏡業務 回診	

●循環器内科

	月	火	水	木	金	土
午前	研修医教育カンファレンス 回診 病棟業務	研修医教育カンファレンス 回診 病棟業務	研修医教育カンファレンス 回診 病棟業務 抄読会	研修医教育カンファレンス 回診 病棟業務	研修医教育カンファレンス 回診 病棟業務	回診 病棟業務
午後	回診 カテ後カンファレンス	回診 リハビリカンファレンス カテ後カンファレンス	回診 入退院支援(他職種協働) カンファレンス カテ後カンファレンス	回診 カテ後カンファレンス	回診 カテ後カンファレンス	

●糖尿病内分泌科

	月	火	水	木	金	土
午前	研修医教育カンファレンス 回診 病棟業務	研修医教育カンファレンス 回診 病棟業務	研修医教育カンファレンス 回診 病棟業務	研修医教育カンファレンス 回診 病棟業務	研修医教育カンファレンス 回診 病棟業務	研修医教育カンファレンス 回診 病棟業務
午後	回診 病棟業務 総合回診	回診 病棟業務	回診 病棟業務	回診 病棟業務	回診 病棟業務	

●腎臓内科

	月	火	水	木	金	土
午前	研修医教育カンファレンス 回診 病棟業務	研修医教育カンファレンス 回診 病棟業務	研修医教育カンファレンス 回診 病棟業務	研修医教育カンファレンス 回診 病棟業務	研修医教育カンファレンス 回診 病棟業務	回診 病棟業務
午後	回診 病棟業務	回診 病棟業務	回診 病棟業務	回診 病棟業務	回診 病棟業務	
※空き時間にミニレクチャーを開催						

●神経内科

	月	火	水	木	金	土
午前	研修医教育カンファレンス 科内カンファレンス (方針確認)	研修医教育カンファレンス 科内カンファレンス (方針確認)	研修医教育カンファレンス 科内カンファレンス (方針確認)	研修医教育カンファレンス 科内カンファレンス (方針確認)	研修医教育カンファレンス 科内カンファレンス (方針確認)	研修医教育カンファレンス 科内カンファレンス (方針確認)
午後	科内カンファレンス (振り返り)	科内カンファレンス (振り返り)	科内カンファレンス (振り返り)	科内カンファレンス (振り返り)	科内カンファレンス (振り返り)	科内カンファレンス (振り返り)

◇E V (研修評価)

1. 自己評価：E P O C (オンライン卒業臨床研修評価システム) と研修医手帳を用いて、自己評価を行う
2. 指導医による評価：E P O C と研修医手帳を用いて評価する
3. 臨床研修指導者、他職種による評価：「研修医評価票」を用いて、評価を行う

◇研修指導責任者及び指導医

指導責任者： 金城俊一

指導医： 金城 俊一、鈴木 智晴、石垣 昌伸、上原 裕規、知念 敏也、仲村 健太郎、名護 元志、千葉 卓、
内間 庸文、仲吉 朝邦、小橋川 嘉泉、高木 亮、石川 和夫、難波 豊隆、池間 朋己、上地 正人、
北村 謙、那須 道高、眞喜志 直子

◇その他研修施設・指導責任者

研修施設： 社会医療法人友愛会 友愛医療センター

指導責任者： 嘉数 真数

(2) 救急（必修科目）

研修の方針

研修は救急集中治療部に所属して行う。救急集中治療部は内科系、外科系の各診療科との円滑な連携のもとに指導を行う。救急集中治療部での研修期間中に基本的な指導を行うが、短期間で網羅的に症例を経験し手技を習得することは困難であり、2年間にわたって救急に従事するため、評価は研修修了時に暫定的に行い、最終的には初期臨床研修修了時に総合して行う。

◇G I O（一般目標）

ER：適切な救急初療を行うために、医師として必須の基本的知識・技能・態度を身につける。

病棟業務：重症患者の病態を把握しつつ、適切な集中治療や管理を行う方法を理解する。

◇S B O（個別行動目標）

●ER

- 1) walk in 患者の問診、診察を行い、検査のプランニング、鑑別診断、治療計画をたてて、指導医にプレゼンテーションができる。
- 2) 救急車で搬入された患者の初期対応ができる。
(到着前の情報収集、受入れの準備、救急隊や付添の人からの情報収集、緊急性の判断等)
- 3) 適切に他診療科へのコンサルトができる。
- 4) 看護師、検査技師、放射線技師など、パラメディカルとのコミュニケーションができる。
- 5) 手動的・器具を使用した気道確保を実践できる。
- 6) 必要な静脈ラインの確保ができる。
- 7) ACLS に沿った二次救命処置ができる。

●病棟業務

- 8) 患者を引き継ぎ、状態の把握をし、朝の回診でプレゼンテーションができる。
- 9) Aline、CVcatheter を挿入することができる。
- 10) 人工呼吸器の適応を理解し上級医と相談しながら設定調節ができる
- 11) 体外循環装置（PCPS、CHDF 等）の適応が理解できる。
- 12) 血行動態モニタリングの数値を理解し対応することができる。
- 13) 患者の治療目標を設定し治療計画を上級医と相談し立てることができる。
- 14) 1ヶ月で10人以上の患者を担当し、サマリーを作成する。

◇L S（研修方略）

1. OJT が中心になる
2. 主治医の指導の下で担当医として患者の診察に当たる。
3. 入院患者を担当し、指導医や上級医と共に、毎日朝と夕方に回診を行う。
4. 選択研修で集中治療を選択する場合、ベッドサイドエコーにて循環動態把握をこまめに行うことを修練する、症例プレゼンテーションを救急科専攻医と同様に実施できるレベルを目指す
5. 各種カンファレンス/勉強会に参加する。

月-金 8:00 研修医教育カンファレンス（全診療科合同）

火曜日 多施設ジャーナルクラブ

水曜日 救急入退院支援（他職種協働）カンファレンス（午前）

スケジュール（ERの場合）

	月	火	水	木	金	土
午前	研修医教育カンファレンス ER業務	研修医教育カンファレンス ER業務	研修医教育カンファレンス ER業務 勉強会	研修医教育カンファレンス ER業務	研修医教育カンファレンス ER業務 抄読会	
午後	ER業務	ER業務	ER業務	ランチョンレクチャー ER業務	ER業務	

スケジュール（病棟の場合）

	月	火	水	木	金	土
午前	研修医教育カンファレンス 回診 病棟業務	研修医教育カンファレンス 回診 病棟業務	研修医教育カンファレンス 回診 病棟業務 勉強会	研修医教育カンファレンス 回診 病棟業務 リハビリカンファレンス	研修医教育カンファレンス 回診 病棟業務 抄読会	回診 病棟業務
午後	病棟業務 回診	病棟業務 回診	入退院支援（他職種協働） カンファレンス 回診	ランチョンレクチャー 病棟業務 回診	病棟業務 回診	

◇EV（研修評価）

1. 自己評価：EPOC（オンライン卒後臨床研修評価システム）と研修医手帳を用いて、自己評価を行う
2. 指導医による評価：EPOCと研修医手帳を用いて評価する
3. 臨床研修指導者、他職種による評価：「研修医評価票」を用いて、評価を行う

◇研修指導責任者及び指導医

指導責任者：米盛 輝武

指導医：米盛 輝武、那須 道高、窪田 圭志、岩永 航、小崎 教史、中泉 貴之

（3）地域医療（必修科目）

研修の方針

地域医療については、医療法人エイチ・エス・アール 名嘉村クリニック、特定医療法人アガベ会 ファミリークリニック きたなかぐすく等の11カ所の本島内のクリニック、または薩摩川内市下甕手打診療所、医療法人鳥伝白川会 ドクターゴン診療所等の6カ所の離島診療所のいずれかから選択できる。ただし、どの施設を選択するにせよ、4週が最低履修期間である（在宅研修を含む）。離島診療所では、僻地・離島医療を学ぶことができる。

◇GIO（一般目標）

地域の診療所や病院の役割を理解し、活動を経験する。また患者の社会復帰や在宅医療支援のため、他の医療施設との連携、調整の方法を習得する。

◇SBO（個別行動目標）

- 1) 地域の診療所、病院での医師の役割を理解し、診療に当たることができる。
- 2) 患者に対し全人的に対応することが出来、患者・家族と良好な人間関係を築く事が出来る。

- 3) 医師、コメディカルとのチーム医療を理解し、院外関係スタッフと良好なコミュニケーションをとることが出来る。
- 4) 患者の在宅医療、介護に際し、必要な連携体制を理解し、行動出来る。
- 5) 長期療養施設の役割を理解し、高齢者の栄養障害、転倒、骨折、誤嚥などに対応できる。
- 6) 実地医家に必要な総合的な臨床知識を習得し、地域の保健、医療活動に従事する事が出来る。
- 7) 地域実地医家のプライマリ・ケアにおける指導的役割を理解する

◇ L S (研修方略)

1. 診療所でのOJTが中心になる
2. 主治医の指導の下で担当医として患者の診察に当たる。

◇ E V (研修評価)

1. 自己評価：E P O C (オンライン卒後臨床研修評価システム) と研修医手帳を用いて、自己評価を行う
2. 指導医による評価：E P O C と研修医手帳を用いて評価する
3. 臨床研修指導者、他職種による評価：「研修医評価票」を用いて、評価を行う

◇ 研修施設・指導責任者

研 修 施 設：医療法人エイチ・エス・アール 名嘉村クリニック
指導責任者：名嘉村 博

研 修 施 設：ファミリークリニックきたなかぐすく
指導責任者：山入端 浩之

研 修 施 設：医療法人清心会 徳山クリニック
指導責任者：徳山 清之

研 修 施 設：統合医療センター クリニックぎのわん
指導責任者：天願 勇

研 修 施 設：医療法人社団平成会 とうま内科
指導責任者：當間 茂樹

研 修 施 設：西平医院
指導責任者：西平 守樹

研 修 施 設：稲福内科医院
指導責任者：稲福 徹也

研 修 施 設：医療法人祥杏会 おもろまちメディカルセンター
指導責任者：久保田 徹

研 修 施 設：医療法人太陽会 かりまた内科医院
指導責任者：狩俣 陽一

研 修 施 設：医療法人真成会 ゆずりは訪問診療所

指導責任者：屋宜 亮兵

研修施設：薩摩川内市下甌手打診療所（下甌島）

指導責任者：室原 誉伶

研修施設：公立久米島病院（久米島）

指導責任者：与那覇 翔

研修施設：医療法人鳥伝白川会 ドクターゴン診療所（宮古島）

指導責任者：泰川 恵吾

研修施設：医療法人鳥伝白川会 ドクターゴン四島診療所（宮古島）

指導責任者：泰川 恵吾

研修施設：伊江村立診療所（伊江島）

指導責任者：阿部 好弘

研修施設：医療法人徳洲会 沖永良部徳洲会病院（沖永良部島）

指導責任者：玉榮 剛

（４）外科（必修科目）

研修の方針

一般外科、プライマリー・ケア、救急診療を基本とする。

病棟：入院患者の受け持ちとなり、指導医の下で診療にあたる。

手術：助手または術者として手術に入る。

特殊検査・治療：指導医の下に見学・介助または術者となる。

当直：指導医の下で救急患者の診療にあたるとともに、病棟患者の管理を行う。

外科総回診、術前症例検討会、抄読会などに参加する。

院内行事に参加：院内他科との合同カンファレンス、CPC などに参加する。

院外の研究会、学会に参加または演者として発表する。

◇G I O（一般目標）

外科疾患に関わる知識を学び、基本的診療技術や態度を習得する。とくに周術期の全身評価を正確に把握し、適切に管理できるようになること。

◇S B O（個別行動目標）

●外科

- 1) 腹部所見の正確な把握と記録ができる。
- 2) 疾患の緊急性の有無を判断でき、必要な検査のオーダーができる。
- 3) 一般的な外科疾患に対し、必要な検査のオーダーを行いその結果の解析ができる。
- 4) 手洗い、ガウンテクニック、清潔操作ができる。
- 5) 術後の創の観察、消毒、ガーゼ交換、腹部ドレーンの役割を理解できる。
- 6) 疾患にあわせた絶食の指示、術前・術後の輸液および栄養管理ができる。
- 7) 担当患者の手術術式を説明できる。

- 8) 待機手術、緊急手術の手術適応について説明できる。
- 9) 糸結びおよび皮膚縫合（閉創）ができる。（5例/月）
- 10) 基本的な疼痛管理ができる。
- 11) 退院患者のサマリーを書く（必須）（10例/月以上）
- 12) 定例カンファレンスの準備と参加（術前症例プレゼンテーション）（2例/月以上）

●呼吸器外科

- 13) 手術の前後で胸腔内や胸壁の解剖を学ぶ
- 14) 呼吸管理を身に付ける
- 15) 呼吸音を聴取して画像にリンクする訓練を始める
- 16) 基本的な胸部レントゲンの読影を覚える
- 17) 退院サマリーを5件以上、診療情報提供書3件以上の作成を目標とする
- 18) 勤務のon/offを指導医にはっきり伝える

●乳腺外科

- 19) マンモグラフィー、乳腺エコーの基本を理解し、典型的な異常の指摘ができるようになる。
- 20) 整容性に配慮した手術手技について理解する。
- 21) 乳癌薬物療法（ホルモン療法、化学療法）の基礎を学ぶ。
- 22) 乳腺病理診断の基礎やTNM分類について学ぶ。
- 23) 患者のメンタル面に配慮した診察や対応ができるようになる。
- 24) 退院サマリーは退院後1週間以内に記載する。
- 25) 担当患者の手術術式を説明できる。

*乳癌診療を経験することで、乳癌のみならず癌診療一般の基本的事項を知ってもらうことを目標としている。

●形成外科

- 26) 形成外科の基本的な診療計画（診察・診断法、手術ならびに保存的治療法など）、基本手技（形成外科的縫合法）、創傷管理法を習得する。
- 27) 外来および入院患者の診察・処置を指導責任者のもとで行う。
- 28) 顔面・四肢・体幹の各部の名称と正常形態（解剖）を理解する。
- 29) 形成外科的縫合法を習得し、創傷管理法（処置法）を学ぶ。
- 30) 形成外科手術の助手を行う。
- 31) 形成外科疾患の治療方針について理解する。
- 32) 形成外科疾患のCT・MRIの読影を習得する。
- 33) 形成外科的外傷の救急処置を行う。
- 34) 退院サマリー5件以上、診療情報提供書3件以上の作成を目標にする。
- 35) 簡単な形成外科的手術・処置の術者となる。例えば、デブリードマン・切開排膿処置・植皮術、鼻骨骨折など。

◇LS（研修方略）

1. 病棟でのOJTが中心になる
2. 主治医の指導の下で担当医として患者の診察に当たる。
3. 入院患者を担当し、指導医や上級医と共に、毎日朝と夕方に回診を行う。
4. 各種カンファレンス/勉強会に参加する。
 - 水曜日 呼吸器外科入退院支援（他職種協働）カンファレンス（午後）
 - 木曜日 形成外科入退院支援（他職種協働）カンファレンス（午後/月2回）

スケジュール

●外科

	月	火	水	木	金	土
午前	回診 手術/病棟業務	術前カンファレンス 回診 病棟業務 術前カンファレンス	回診 手術/病棟業務	回診 手術/病棟業務	回診 手術/病棟業務	回診 病棟業務
午後	回診 手術/病棟業務	回診 病棟業務 リハビリカンファレンス 入退院支援カンファレンス 消化器病センターカンファレンス	回診	回診 手術/病棟業務	回診 手術/病棟業務	

●呼吸器外科

	月	火	水	木	金	土
午前	研修医教育カンファレンス 回診 病棟業務	研修医教育カンファレンス 手術 病棟業務	研修医教育カンファレンス 回診 病棟業務	研修医教育カンファレンス 回診 気管支鏡検査 病棟業務	研修医教育カンファレンス 回診 勉強会 病棟業務	回診 病棟業務
午後	術前カンファレンス 病棟業務 回診	手術 病棟業務 回診	入退院支援(他職種協働) カンファレンス 病棟業務 回診	気管支鏡検査 手術 病棟業務 回診	病棟業務 回診	

●乳腺外科

	月	火	水	木	金	土
午前	回診 病棟業務		回診 手術 病棟業務	回診 手術 病棟業務		リハビリカンファレンス チーム回診
午後	病棟業務 回診		術前・術後カンファレンス 抄読会 入退院支援(他職種協働) カンファレンス 回診	手術 病棟業務 回診		

*斜線部は他外科（呼吸器外科 or 形成外科）を研修

●形成外科

	月	火	水	木	金	土
午前		回診 手術 外来/病棟業務			回診 手術 外来/病棟業務	
午後		手術 外来/病棟業務 回診			手術 外来/病棟業務 回診	

*斜線部は乳腺外科を研修

◇EV（研修評価）

1. 自己評価：EPOC（オンライン卒業臨床研修評価システム）と研修医手帳を用いて、自己評価を行う
2. 指導医による評価：EPOCと研修医手帳を用いて評価する
3. 臨床研修指導者、他職種による評価：「研修医評価票」を用いて、評価を行う

◇研修指導責任者及び指導医

指導責任者： 藏下 要

指導医： 長嶺 義哲、伊志嶺 朝成、亀山 眞一郎、佐村 博範、堀 義城、新垣 淳也、伊禮 俊充、金城 直、
本成 永、原田 哲嗣、梶浦 耕一郎、谷口 春樹、藏下 要、宮里 恵子、春名 奈津紀

(5) 麻酔科（病院が定めた必修科目）

研修の方針

研修期間のうち最低8週の麻酔科研修を行う。60例の全身麻酔を経験することを目標とする。

◇G I O（一般目標）

麻酔科領域における基本的診療能力を身につけ、他の専門診療科医師やメディカルスタッフと協調して適切な周術期全身管理を行うことができる。

◇S B O（個別行動目標）

1) 患者の術前診察を通して、適切な術前評価と麻酔計画の策定ができる。麻酔管理上の問題点を把握し、指導医に報告・相談できる。

2) 手術室において、安全な麻酔管理を習得する。

基本手技の習得：マスク換気、気管内挿管、静脈ライン確保、動脈ライン確保、麻酔関連薬剤の使用
方法と副作用の熟知、術中モニタリングの評価、麻酔記録の記載、麻酔維持、異常時の対応（指導医に的確に指示を仰ぐ等）、人工呼吸管理、抜管の基準、術後覚醒状態の把握、リカバリー退室基準、
術後鎮痛法、術後回診による患者状態把握。

3) 医師としての基本的考え方、姿勢を身につけること。

4) 研修修了時に、テーマを絞って、研究発表を行うこと。

◇L S（研修方略）

1. 手術室研修

1) 麻酔科依頼の症例を麻酔科医の指導の下で担当する

2) 術前、術後診察を麻酔科医の指導の下で担当する

2. 各種カンファレンス/勉強会に参加する。

月一金 8:00 麻酔科カンファレンス

月曜日 8:15 症例カンファレンス

水曜日 8:15 勉強会

金曜日 8:15 抄読会

スケジュール

	月	火	水	木	金	土
午前	麻酔科カンファレンス 手術 症例カンファレンス	麻酔科カンファレンス 手術	麻酔科カンファレンス 手術 勉強会	麻酔科カンファレンス 手術	麻酔科カンファレンス 手術 抄読会	麻酔科カンファレンス 手術
午後	手術	手術	手術	手術	手術	

◇E V（研修評価）

1. 自己評価：E P O C（オンライン卒後臨床研修評価システム）と研修医手帳を用いて自己評価を行う
2. 指導医による評価：E P O Cと研修医手帳を用いて評価する
3. 臨床研修指導者、他職種による評価：「研修医評価票」を用いて、評価を行う
4. ポートフォリオを作成し、症例数、必要な手技、知識を習得したかを確認する。

◇研修指導責任者及び指導医

指導責任者：藤岡 照久

指導医：藤岡 照久、宮城 太郎、兼村 大介、梅谷 一公

（6）産婦人科（必修科目）

研修の方針

分娩の介助は必修とする産婦人科での研修希望者は、チームの一員として産婦人科医としての全ての業務に指導医のもとで従事する。

沖縄県立南部医療センター・こども医療センター、社会医療法人友愛会 友愛医療センター、社会医療法人かりゆし会 ハートライフ病院、琉球大学病院、沖縄医療生活協同組合 沖縄協同病院、社会医療法人敬愛会 中頭病院のいずれかの病院を選択し研修を行う。

◇G I O（一般目標）

産婦人科診療の基本を身につけ、主な産婦人科疾患について必要な検査を選択し解釈の基本を学び、産科では正常分娩の取り扱いができ、婦人科の基本的疾患の診療の管理ができる。

◇S B O（個別行動目標）

●産科領域：

- 1) 産科患者に問診し、産科的なポイントを押さえた病歴の聴取ができる
- 2) 胎児心拍数モニターを判読し、管理方針をたてることができる
- 3) 看護師（助産師）の介助のもと1人で内診を行い、所見を取ることができる
- 4) 正常分娩の介助の手順がわかる
- 5) 妊婦・褥婦の出血に対する応急処置の手順がわかる
- 6) 妊婦への投薬、X線検査等の胎児への影響に関し、概略を理解している

●婦人科領域：

- 7) 婦人科患者または家族などを問診し、診断に必要な情報を聴取し、記録できる
- 8) 婦人科一般診察の仕方を理解し、その結果を解釈できる
- 9) 性器出血の応急処置の手順がわかる
- 10) 腹腔内出血の有無を診断できる
- 11) 婦人科領域の急性腹症を他の急性腹症と鑑別し、婦人科医に紹介することができる

◇L S（研修方略）

1. 病棟でのOJTが中心になる
2. 主治医の指導の下で担当医として患者の診察に当たる。
3. 各種カンファレンスに参加する。

◇E V（研修評価）

1. 自己評価：E P O C（オンライン卒後臨床研修評価システム）と研修医手帳を用いて、自己評価を行う
2. 指導医による評価：E P O Cと研修医手帳を用いて評価する
3. 臨床研修指導者、他職種による評価：「研修医評価票」を用いて、評価を行う

◇研修施設・指導責任者

研 修 施 設：沖縄県立南部医療センター・こども医療センター

指導責任者：長井 裕

研 修 施 設：社会医療法人友愛会 友愛医療センター

指導責任者：前濱 俊之

研 修 施 設：社会医療法人かりゆし会 ハートライフ病院

指導責任者：武田 理

研 修 施 設：琉球大学病院

指導責任者：久高 亘

研 修 施 設：沖縄医療生活協同組合 沖縄協同病院

指導責任者：嘉陽 真美

研 修 施 設：社会医療法人敬愛会 中頭病院

指導責任者：諸見里 秀彦

（7）小児科（必修科目）

研修の方針

基本目標を救急、プライマリーケアの実施できる医師の養成におく。

医療法人徳洲会 中部徳洲会病院、沖縄医療生活協同組合 沖縄協同病院、沖縄県立南部医療センター・こども医療センター、琉球大学病院、社会医療法人かりゆし会 ハートライフ病院、社会医療法人友愛会 友愛医療センター、社会医療法人敬愛会 中頭病院、地方独立行政法人那覇市立病院のいずれかの病院を選択し研修を行う。

◇G I O（一般目標）

小児領域でよく見られる疾患について適切な対応をおこなう。

◇S B O（個別行動目標）

- 1) 適切なチーム医療・連携を基盤とし、小児内科疾患一般を有する小児の医療面接および身体検査を適切に行うことができる。
- 2) 小児内科疾患ごとに検査の目的・適応について小児およびその保護者に適切に説明することができる。
- 3) 検査結果についての的確に解釈し、指導医に呈示することができる。
- 4) 検査結果について小児およびその保護者に十分かつ正確に説明し理解を得ることができる。
- 5) 血液採取・静脈路確保・吸入などを経験し、手順を指導医に説明することができる。
- 6) 小児内科疾患ごとに治療の目的・適応について小児およびその保護者に適切に説明することができる。

- 7) 治療方針についての確に構想し、指導医に呈示することができる。
- 8) 治療方針について小児および保護者に十分かつ正確に説明し同意を得ることができる。
- 9) 適切なチーム医療・連携を基盤とし、小児内科疾患一般を有する小児の管理を適切に実施することができる。

◇ L S (研修方略)

1. 指導医・上級医の下での OJT が中心になる
2. 主治医の指導の下で担当医として患者の診察に当たる。
3. 各種カンファレンスに参加する。

◇ E V (研修評価)

1. 自己評価：E P O C (オンライン卒後臨床研修評価システム) と研修医手帳を用いて、自己評価を行う
2. 指導医による評価：E P O C と研修医手帳を用いて評価する
3. 臨床研修指導者、他職種による評価：「研修医評価票」を用いて、評価を行う

◇ 研修施設・指導責任者

研 修 施 設：社会医療法人友愛会 友愛医療センター
指導責任者：宮里 弘樹

研 修 施 設：沖縄医療生活協同組合 沖縄協同病院
指導責任者：雨積 涼子

研 修 施 設：医療法人徳洲会 中部徳洲会病院
指導責任者：長田 博臣

研 修 施 設：社会医療法人敬愛会 中頭病院
指導責任者：砂川 信

研 修 施 設：沖縄県立南部医療センター・こども医療センター
指導責任者：大城 達男

研 修 施 設：社会医療法人かりゆし会 ハートライフ病院
指導責任者：崎原 徹裕

研 修 施 設：琉球大学病院
指導責任者：中西 浩一

研 修 施 設：地方独立行政法人 那覇市立病院
指導責任者：伊波 徹

(8) 精神科 (必修科目)

I. 研修の方針

精神障害の診断と治療を学び、精神神経症状の評価と対応、心理検査、精神薬物療法、精神科救急、精神保健などについて外来及び入院、リエゾンチームを通じて研修する。医療法人一灯会 沖縄中央病院、医療法人卯の会 新垣病院、医療法人へいあん 平安病院、医療法人社団志誠会 平和病院、沖縄県立精和病院、独立行政法人国立病院機構 琉球病院、医療法人陽和会 南山病院のいずれかの病院を選択し研修を行う。

◇GIO (一般目標)

プライマリー・ケアにおける精神疾患に対し、精神医学的手段を駆使して、心身両面からのアプローチで診断と治療ができ、専門医へのコンサルトの必要性和タイミングを判断できる能力を身につける。

◇SBO (個別行動目標)

- 1) 面接と診断の方法を理解する。
- 2) 精神症状を把握する。
- 3) 薬物療法の基礎を学ぶ。
- 4) 精神療法の基礎を学ぶ。(指示的精神療法を中心に)
- 5) 治療計画を作成する。
- 6) 家族および支援者の心理を理解し、支援方法を学ぶ。
- 7) チームとしての活動を進める。
- 8) 精神科救急を体験する。
- 9) 精神科領域におけるインフォームドコンセントを経験する。

◇LS (研修方略)

1. 病棟でのOJTが中心になる
2. 主治医の指導の下で担当医として患者の診察に当たる。
3. 各種カンファレンスに参加する。

◇EV (研修評価)

1. 自己評価：EPOC (オンライン卒後臨床研修評価システム) と研修医手帳を用いて、自己評価を行う
2. 指導医による評価：EPOCと研修医手帳を用いて評価する
3. 臨床研修指導者、他職種による評価：「研修医評価票」を用いて、評価を行う

◇研修施設・指導責任者

研修施設：医療法人卯の会 新垣病院
指導責任者：佐藤 香代子

研修施設：沖縄県立精和病院
指導責任者：山川 宗一郎

研修施設：医療法人一灯会 沖縄中央病院
指導責任者：高良 聖治

研修施設：医療法人へいあん 平安病院
指導責任者：平安 良雄

研修施設：医療法人社団志誠会 平和病院
指導責任者：宮城 則孝

研修施設：独立行政法人国立病院機構 琉球病院
指導責任者：福治 康秀

研修施設：医療法人陽和会 南山病院
指導責任者：譜久原 弘

研修施設：琉球大学病院
指導責任者：近藤 毅

(9) 脳神経外科（病院で定めた必修科目）

研修方針

救急医療を重視し、頭部外傷・脳血管障害等脳神経疾患に対する診断能力を身に付けるようにする。また、CT、MRIなどの画像診断を理解し、読影できるようにする。脳神経外科以外の部門に勤務している時に脳外科的疾患が疑われる患者を診た場合に、いたずらに時間が経過することのないよう、専門医に連絡するタイミングを知ることが必要である。

◇GIO（一般目標）

脳神経外科領域の救急疾患の研修を重視する。頭部外傷や脳血管障害などに対する初期の適切な診療につなげるための知識、技能、態度を身につける。また適切なタイミングで専門医に相談する能力を身につける。

◇SBO（個別行動目標）

- 1) 脳神経外科診療を自主的に手伝い、適切な指示が出せる。
- 2) 中枢神経系の解剖と病態生理の理解の下、基本的診察が実施できる。
- 3) 脳卒中の診断、急性期治療について適切に対応ができる。
- 4) 頭部外傷の診断、急性期治療について適切に対応ができる。
- 5) CTやMRIなどの検査に関し適切に実施でき、基本的な読影ができる。
- 6) 髄液検査が安全に確実にできる。
- 7) 手術場での的確な清潔区域や不潔区域の判断が行える。
- 8) 退院サマリーが1週間以内に記載できる。

スケジュール

	月	火	水	木	金	土
午前	研修医教育カンファレンス 回診 病棟業務 入退院支援(他職種協働) カンファレンス	研修医教育カンファレンス 回診 手術 病棟業務	研修医教育カンファレンス 回診 病棟業務	研修医教育カンファレンス 回診 手術 病棟業務	研修医教育カンファレンス 回診 病棟業務	回診 病棟業務
午後	脳神経外科カンファレンス 回診 病棟業務	手術 回診 病棟業務	回診 病棟業務	手術 回診 病棟業務	回診 病棟業務	

◇ L S（研修方略）

1. 病棟でのOJTが中心になる
2. 主治医の指導の下で担当医として患者の診察に当たる。
3. 各種カンファレンス/勉強会に参加する。

◇ E V（研修評価）

1. 自己評価：E P O C（オンライン卒後臨床研修評価システム）と研修医手帳を用いて、自己評価を行う
2. 指導医による評価：E P O Cと研修医手帳を用いて評価する
3. 臨床研修指導者、他職種による評価：「研修医評価票」を用いて、評価を行う

◇ 研修指導責任者及び指導医

指導責任者：伊藤 公一

指導医：伊藤 公一

(10) 一般外来（必修科目）

2年間通年で計4週一般外来研修を行う。（地域医療研修での上限1週を含む。）

指導医サポート下において週1回（半日）程度の外来研修を行う。

※週1回（半日）研修を行う場合、40コマ（40日）、必要である。

症候・病態から適切な臨床推論プロセスを経て解決に導き、頻度の高い慢性疾患の継続診療を行う為、特定の症候や疾病に偏らない研修を行う。

◇ G I O（一般目標）

臨床現場で求められる医師としての行動規範と基本的診察法を身につけ、一般的で幅広い領域の疾患の外来診療を行い、総合的な診療・判断能力を獲得することを目標とする。

◇ S B O（個別行動目標）

- 1) 初診患者の医療面接ができる。（挨拶、観察、言葉遣い、患者解釈モデルの理解、多種多様な場面への対応）
- 2) 基本的な身体診察と病態に関連する重点診察ができる。
- 3) 患者個別によるプライバシーについて配慮することができる。
- 4) 検査計画を立てることができる。
- 5) 適切に外来カルテを記載することができる。
- 6) 説明と同意の取得と記録ができる。
- 7) 専門診療が必要な患者について、適切な医療コンサルテーションができる。また他科からの診療依頼について指導医と共に対応できる。
- 8) 医療面接及び身体診察から得た情報をもとに、必要な基本的検査の立案計画と評価ができる。
- 9) コメディカル及び他の医療機関の役割を理解し、医療連携のなかで患者にとって適切な医療環境を整備できる。
- 10) 次回の外来診察の判断ができる。

◇ E V（研修評価）

1. 患者の診察終了後は、必ず研修医・指導医共に振り返りを行い、指導内容を診療録に記載する。
2. 自己評価：E P O C（オンライン卒後臨床研修評価システム）に実施記録を入力する。
3. 指導医による評価：研修医が入力した実施記録を確認する。

(11) 整形外科（選択科目）

研修の方針

チームの一員として診療に参加し、外来診察、病棟業務、手術、救急診療に従事する。なお整形外科では線所見の読影が非常に大きな地位を占めるので、全研修過程でできるだけ多くのフィルムを読むよう努力することを要望する。

◇G I O（一般目標）

一般的な整形外科疾患におけるプライマリ・ケアや基本的手技について学ぶ。

◇S B O（個別行動目標）

- 1) 解剖を理解すること
- 2) 基本的な理学所見の取り方、診察方法を学ぶ
- 3) 代表的疾患のレントゲン、CT、MRIなどの画像を読める
- 4) 術前、術後、回診時のプレゼンテーションを行う
- 5) 手術の予習、振り返りを行う
- 6) しっかり挨拶ができる
- 7) チームワークを大切にする
- 8) 1年後、3年後、5年後、10年後などの夢を持つ、持たせる

◇L S（研修方略）

1. 手術室・病棟でのOJTが中心になる
2. 主治医の指導の下で担当医として患者の診察に当たる。
3. 各種カンファレンス/勉強会に参加する。
毎朝 症例カンファレンス
木曜日 整形外科入退院支援（他職種協働）カンファレンス（午前）

◇E V（研修評価）

1. 自己評価：E P O C（オンライン卒後臨床研修評価システム）と研修医手帳を用いて、自己評価を行う
2. 指導医による評価：E P O Cと研修医手帳を用いて評価する
3. 臨床研修指導者、他職種による評価：「研修医評価票」を用いて、評価を行う

◇研修指導責任者及び指導医

指導責任者：大城 朋之

指導医：大城 朋之、石塚 光太郎

◇その他研修施設・指導責任者

研修施設：医療法人銀河 A z クリニック

指導責任者：富原 匠

(12) 放射線科 (選択科目)

研修の方針

- 将来役立つ画像診断の基礎を学ぶ。
- 放射線科が関与するカンファレンスに出席することを要望する。
- 画像診断に関して遠慮なく相談すること。

◇GIO (一般目標)

放射線科における画像診断の概要を理解し、日常診療に応用できるようになる。

◇SBO (個別行動目標)

- 1) 検査にかかわる患者負担を認識し、患者が最大の受益者となるよう得られた情報は活用する。
- 2) 画像にとらわれず、患者全体の病態の把握につとめること。
- 3) 依頼の注目点のみならず、画像すべての情報を引き出すこと。
- 4) もし、進路が決まっていれば、その科で行う手技をスムーズにするための画像所見を知ること。

◇LS (研修方略)

1. 指導医の指導の下で、画像診断に当たる。
2. IVR 発生時はOJTにて研修を行う。
3. 各種カンファレンスに参加する。

月—金 8:00 研修医教育カンファレンス(救急・内科・外科・放射線科合同)

月 15:00 呼吸器病理カンファレンス(呼吸器内科・外科・病理診断科・放射線科合同)

火 17:00 消化器カンファレンス(消化器内科・外科・病理診断科・放射線科合同)

木 16:00 呼吸器カンファレンス(呼吸器内科・病院総合内科・放射線科合同)

火(月1回) 18:00 放射線治療カンファレンス

スケジュール

	月	火	水	木	金	土
午前	研修医教育カンファレンス 呼吸器病理カンファレンス 画像診断	研修医教育カンファレンス 画像診断	研修医教育カンファレンス 画像診断	研修医教育カンファレンス 画像診断	研修医教育カンファレンス 画像診断	画像診断
午後	画像診断	消化器カンファレンス 画像診断	画像診断	呼吸器カンファレンス 画像診断	画像診断	画像診断

◇EV (研修評価)

1. 自己評価：EPOC (オンライン卒業臨床研修評価システム) と研修医手帳を用いて、自己評価を行う
2. 指導医による評価：EPOCと研修医手帳を用いて評価する
3. 臨床研修指導者、他職種による評価：「研修医評価票」を用いて、評価を行う

◇研修指導責任者及び指導医

指導責任者：宜保 慎司

指導医：宜保 慎司

(13) 緩和ケア (選択科目)

◇G I O (一般目標)

緩和ケアの実際を、体験と講義を通じて学び、基本的治療ができる。

◇S B O (個別行動目標)

- 1) 患者と家族の全人的苦痛について理解する。身体的苦痛・社会的苦痛・精神的苦痛・スピリチュアルペインについて理解し、患者・家族のQOLを改善するために、これらの問題を軽減する取り組みを行う。
- 2) 緩和ケアは多職種チームで行うものであることを理解し実践する
- 3) 以下の症状についての評価と症状緩和について方針を出せる
 - ①痛み ②全身倦怠感 ③不眠 ④食欲不振 ⑤浮腫 ⑥呼吸困難 ⑦嘔気・嘔吐 ⑧腹部膨満感 ⑨便秘異常 (便秘)
 - ⑩不安・抑うつ
- 4) 患者・家族の死生観や宗教観を尊重した対応をする。
- 5) 療養場所について理解を深め、今後の暮らし方や療養場所の選択について患者・家族と相談できる。
- 6) 在宅ケアでの介護保険と医療保険の仕組みを理解し、在宅ケアの導入ができるようになる。
- 7) 死亡直前期 (臨死期) の症状とケアについて理解し、看取りに立ち会う。

◇L S (研修方略)

1. 指導医の指導の下で、病棟患者を回診し、カルテ記載を行う。
2. 患者・家族の苦痛を軽減する方法を指導医・スタッフと共に考え対処する。
3. 各種カンファレンスに参加する。
4. 医療用麻薬、鎮痛補助薬、NSAIDs、アセトアミノフェンの処方ができ、その効果と副作用について患者・家族に説明ができるようになる。

◇E V (研修評価)

1. 自己評価：E P O C (オンライン卒後臨床研修評価システム) と研修医手帳を用いて自己評価を行う
2. 指導医による評価：E P O C と研修医手帳を用いて評価する
3. 臨床研修指導者、他職種による評価：「研修医評価票」を用いて、評価を行う

◇研修指導責任者及び指導医

指導責任者：新里 誠一郎

指導医：新里 誠一郎

(14) 耳鼻咽喉科 (選択科目)

研修方針

救急外来で一般的に遭遇する耳鼻咽喉科疾患に対する初期対応ができる診療能力を身につける。

◇G I O (一般目標)

基本的な身体診察法、臨床検査、基本的治療法、経験すべき症状、疾患のうち、耳鼻咽喉科領域の診療について重点的な研修を行い、診療能力を身につける。

◇SBO（個別行動目標）

- 1) 基本的な診察：頭頸部、耳鼻咽喉の所見を診て評価する。
- 2) 一般的な外来検査を行う：聴力検査、平衡機能検査、顔面神経検査、味覚検査、咽頭ファイバースコープなど
- 3) 各種画像検査の読影
- 4) 一般的な耳鼻科処置の研修：鼓膜切開、耳・鼻・咽頭異物除去、鼻出血止血術など
- 5) 基本的な手術の研修：鼓膜チューブ留置術、鼻内手術、口蓋扁桃摘出術、咽頭扁桃摘出術、気管切開術など
- 6) 研究への参加、学会活動

◇LS（研修方略）

1. 病棟でのOJTが中心になる
2. 主治医の指導の下で担当医として患者の診察に当たる。
3. 各種カンファレンスに参加する。

◇EV（研修評価）

1. 自己評価：EPOC（オンライン卒後臨床研修評価システム）と研修医手帳を用いて、自己評価を行う
2. 指導医による評価：EPOCと研修医手帳を用いて評価する
3. 臨床研修指導者、他職種による評価：「研修医評価票」を用いて、評価を行う

（15）病理診断科（選択科目）

研修方針

将来役立つ病理診断の基礎を学ぶ。CPCや病理診断科が参加する他科とのカンファレンスには出席する。

◇GIO（一般目標）

病理検体の採取・病理検査部提出から病理診断報告までのながれを理解し、病理診断の基礎を学ぶことで、日常診療で病理診断を役立てることができるようになる。

◇SBO（個別行動目標）

- 1) 病理・細胞診検体の取り扱いを理解し、スムーズに検体を病理診断科に提出できる。
- 2) 病理診断書報告までの過程を理解し概説できる。
- 4) 基本的な染色法を理解する
- 5) 組織診断、細胞診、術中迅速診断、迅速細胞診の適応を理解する。
- 6) 基本的な切り出し法を学び、自分でも教科書など調べながら、病理診断の基本ができるようになる

◇LS（研修方略）

- 1) 指導医の指導下で、病理診断、細胞診断、迅速病理診断、迅速細胞診断にあたる。
- 2) 解剖発生時は、指導医とともに病理解剖に解剖医として参加する。
- 3) 各種カンファレンスに参加する。

◇EV（研修評価）

1. 自己評価：EPOC（オンライン卒後臨床研修評価システム）と研修医手帳を用いて、自己評価を行う。
2. 指導医による評価：EPOCと研修医手帳を用いて評価する。

3. 臨床研修指導者、他職種による評価：「研修医評価票」を用いて、評価を行う

◇研修指導責任者及び指導医

指導責任者： 松崎 晶子

指導医： 松崎 晶子

(16) 心臓血管外科（選択科目）

研修方針

初期研修として、病棟での指示、検査オーダー、カルテの書き方等を覚える。また、心臓血管外科は基本的に外科の一部門であり外科診療を含めた研修するのであるが、特に ICU 患者が多いため循環器系の管理、呼吸器系の管理を含めた綿密な全身管理の基本を習得する。

◇G I O（一般目標）

- ・循環器疾患一般について、初期対応、診断、治療の流れが組み立てられるようにする。
- ・心臓血管外科手術の流れを理解し、第一助手が出来るようにする。
- ・心臓血管外科手術の開始と終了部分の皮膚切開（皮膚縫合）～胸骨縦切開（胸骨閉鎖）が出来るようにする。

◇S B O（個別行動目標）

1. チーム医療の一員として行動できる。指導医とともに入院患者を受け持ち、心臓血管外科患者の管理を学ぶ。
2. 急性大動脈解離等の急性大動脈症候群の救急患者の診察、処置を学ぶ。
3. 心臓カテーテル検査手技を学ぶ。その結果を解釈できる。
4. 心臓聴診所見がとれる。
5. 胸腹部 CT、心臓超音波などの循環器画像所見の基本的な読影を学ぶ。
6. 皮膚切開、胸骨縦切開の基本的な外科手技を学び、手術助手を務める。
7. 開心手術の術前術後管理を学ぶ。
8. 関係他科との連携をとり、全身管理を学ぶ。
9. リハビリテーションの必要性を理解する。
10. 各種カンファランスに出席し、症例について発表できる。
11. 発表原稿を作成できる。

◇L S（研修方略）

I.

SBOs	分類	方法	評価者
1	態度	日常診療	指導医
2	知識・技能・態度	日常診療	指導医
3	知識・技能・態度	救急室	指導医
4	知識・技能・解釈	カテ室	指導医
5	知識・解釈	自習、日常診療	指導医
6	知識・解釈	自習、日常診療	指導医
7	技能・態度	手術室	指導医
8	知識・技能・態度	ICU	指導医
9	知識・技能	日常診療	指導医
10	知識・解釈・想起	日常診療	指導医

11	知識・解釈・想起	各カンファランス	指導医
12	知識・解釈・想起	医局	指導医

II. ルール

①スタート時間の厳守

朝の回診：7：30～開始（ICUから） 夕の回診：17：00～開始（ICUから）

②{「ほうれんそう（報告・連絡・相談）」+自分の考えを述べる}の励行

③他人を尊重する態度。

III. 当科でのルール

①スタート時間を守りましょう。

朝の回診：7：30～開始（ICUから）

夕の回診：17：00～開始（ICUから）

②{「ほうれんそう（報告・連絡・相談）」+自分の考えを述べる}の励行

③他人を尊重する態度。

IV. 1ヶ月のスケジュール、勤務時間

朝回診：7：30、夕回診：17：00

下記、1週間スケジュール

IV. 1週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土
午前	朝回診 新患外来（國吉） 再診外来（盛島）	朝回診 手術	朝回診 ICU回診（國吉） 11:00 勉強会 再診外来（盛島）	朝回診 再診外来（新垣）	朝回診 手術	朝回診
午後	術前カンファレンス 夕回診	術前カンファレンス 回診	16:45 夕回診 病棟業務 回診	気管支鏡検査 手術 病棟業務 回診	術前カンファレンス 回診	

V. 他

1. 研修計画責任者：國吉幸男
2. 研修指導医：國吉幸男、新垣勝也、盛島裕次
3. 研修評価はEPOCおよび総括的評価にて行う。
4. 受け入れ人数：1名、研修期間：1ヶ月
5. 可能であれば、外科初期研修終了後がより望ましい。

◇E V（研修評価）

1. 自己評価：EPOC（オンライン卒後臨床研修評価システム）と研修医手帳を用いて、自己評価を行う
2. 指導医による評価：EPOCと研修医手帳を用いて評価する

3. 臨床研修指導者、他職種による評価：「研修医評価票」を用いて、評価を行う

◇研修指導責任者及び指導医

指導責任者：國吉 幸男

指導医：國吉 幸男、新垣 勝也

(17) 腎・泌尿器外科（選択科目）

研修方針

一般外科、プライマリー・ケア、救急診療を基本とする。

病棟：入院患者の受け持ちとなり、指導医の下で診療にあたる。

手術：助手または術者として手術に入る。

特殊検査・治療：指導医の下に見学・介助または術者となる。

当直：指導医の下で救急患者の診療にあたるとともに、病棟患者の管理を行う。

回診、術前症例検討会、抄読会などに参加する。

院内行事に参加：院内他科との合同カンファレンス、CPC などに参加する。

院外の研究会、学会に参加または演者として発表する。

◇G I O（一般目標）

周術期管理、泌尿器科疾患の初期診断および治療を的確に行える

◇S B O（個別行動目標）

- 1) 診察を適切に行うことができる。
- 2) 診断を導くための検査を適切に計画できる。
- 3) 検査の内容と適応について説明できる。
- 4) 検査結果を自分で判断できる。
- 5) 患者に検査の目的や結果をわかりやすく説明できる。
- 6) 泌尿器科医としての侵襲的検査を経験し説明できる。
- 7) 主な疾患の術前術後管理の仕方を説明できる。

◇L S（研修方略）

1. 病棟での OJT が中心になる
2. 主治医の指導の下で担当医として患者の診察に当たる。
3. 入院患者を担当し、指導医や上級医と共に、毎日朝と夕方に回診を行う。
4. 各種カンファレンス/勉強会に参加する。

スケジュール

	月	火	水	木	金	土
午前	回診 病棟業務	回診 病棟業務	術前カンファレンス 回診 手術/病棟業務	回診 病棟業務	回診 手術/病棟業務	回診 病棟業務
午後	回診 病棟業務	回診 手術/病棟業務	回診 手術/病棟業務	回診 病棟業務	回診 手術/病棟業務	

◇E V（研修評価）

1. 自己評価：E P O C（オンライン卒後臨床研修評価システム）と研修医手帳を用いて、自己評価を行う
2. 指導医による評価：E P O Cと研修医手帳を用いて評価する
3. 臨床研修指導者、他職種による評価：「研修医評価票」を用いて、評価を行う

◇研修指導責任者及び指導医

指導責任者：豊里友常

指導医：銘苅晋吾

協力型臨床研修病院、臨床研修協力施設

協力型臨床研修病院

医療法人おもと会 大浜第一病院

所在地： 沖縄県那覇市天久1000番地

TEL： 098-866-5171

病床数： 214床

研修実施責任者： 岡田 祥一

研修受入診療科： 内科、外科、麻酔科、整形外科、脳神経外科、泌尿器科

沖縄医療生活協同組合 沖縄協同病院

所在地： 沖縄県那覇市古波蔵4-10-55

TEL： 098-853-1200

病床数： 280床

研修実施責任者： 高原 安彦

研修受入診療科： 内科、外科、麻酔科、小児科、整形外科、脳神経外科、心臓外科、リハビリ科

医療法人徳洲会 中部徳洲会病院

所在地： 沖縄県中頭郡北中城村字比嘉801番地

TEL： 098-932-1110

病床数： 368床

研修実施責任者： 仲間 直崇

研修受入診療科： 内科、外科、麻酔科、小児科、整形外科、脳神経外科、耳鼻咽喉科、形成外科、高気圧治療、心臓外科、病理科、泌尿器科

社会医療法人友愛会 友愛医療センター

所在地： 沖縄県豊見城市与根50番地5

TEL： 098-850-3811

病床数： 378床

研修実施責任者： 嘉数 真教

研修受入診療科： 内科、外科、救急、麻酔科、小児科、産婦人科、整形外科、放射線科、眼科、耳鼻咽喉科、泌尿器科

社会医療法人敬愛会 中頭病院

所在地： 沖縄県沖縄市字登川610番地

TEL： 098-939-1300

病床数： 355床

研修実施責任者： 新里 敬

研修受入診療科： 内科、感染症科、外科、救急、麻酔科、小児科、産婦人科、整形外科

医療法人徳洲会 南部徳洲会病院

所在地： 沖縄県島尻郡八重瀬町字外間171番地1

TEL： 098-998-3221

病床数： 345床

研修実施責任者： 今村 恵

研修受入診療科： 内科、外科、麻酔科、整形外科、脳神経外科、放射線科、高気圧治療部、泌尿器科、心臓外科、皮膚科

医療法人卯の会 新垣病院

所在地： 沖縄県沖縄市安慶田4丁目10番3号

TEL： 098-933-2756

病床数： 273床

研修実施責任者： 佐藤 香代子

研修受入診療科： 精神科

沖縄県立精和病院

所在地： 沖縄県島尻郡南風原町字新川260

TEL： 098-889-1390

病床数： 250床

研修実施責任者： 山川 宗一郎

研修受入診療科： 精神科

医療法人一灯会 沖縄中央病院

所在地： 沖縄県沖縄市字知花5丁目26番1号

TEL： 098-938-3188

病床数： 239床

研修実施責任者： 高良 聖治

研修受入診療科： 精神科

医療法人へいあん 平安病院

所在地： 沖縄県浦添市字経塚346番地

TEL： 098-877-6467

病床数： 393床

研修実施責任者： 平安 良雄

研修受入診療科： 精神科

医療法人社団志誠会 平和病院

所在地： 沖縄県うるま市上江洲665

TEL： 098-973-2000

病床数： 212床

研修実施責任者： 宮城 則孝

研修受入診療科： 精神科

独立行政法人国立病院機構 琉球病院

所在地： 沖縄県国頭郡金武町字金武7958-1

TEL： 098-968-2133

病床数： 416床

研修実施責任者： 福治 康秀

研修受入診療科： 精神科

医療法人陽和会 南山病院

所在地： 沖縄県糸満市賀数406-1

TEL： 098-994-3660

病床数： 215床

研修実施責任者： 譜久原 弘

研修受入診療科： 精神科

独立行政法人国立病院機構 沖縄病院

所在地： 沖縄県宜野湾我如古3丁目20番14号

TEL： 098-898-2121

病床数： 300床

研修実施責任者： 大湾 勤子

研修受入診療科： 内科、外科

医療法人八重瀬会 同仁病院

所在地： 沖縄県浦添市城間1-37-12

TEL： 098-876-2212

病床数： 154床

研修実施責任者： 比嘉 清志郎

研修受入診療科： 内科、整形外科、泌尿器科、心療内科

沖縄県立南部医療センター・こども医療センター

所在地： 沖縄県島尻郡南風原町字新川118番地1

TEL： 098-888-0123

病床数： 434床

研修実施責任者： 利根川 尚也

研修受入診療科： 小児科、産婦人科、救急科

社会医療法人かりゆし会 ハートライフ病院

所在地： 沖縄県中頭郡中城村伊集208

TEL： 098-895-3255

病床数： 308床

研修実施責任者： 普天間 光彦

研修受入診療科： 産婦人科、小児科

琉球大学病院

所在地： 沖縄県中頭郡西原町上原207

TEL： 098-895-3331

病床数： 585床

研修実施責任者： 梅村 武寛

研修受入診療科： 外科、産婦人科、小児科、精神科、放射線科、皮膚科、泌尿器科、

社会医療法人友愛会 豊見城中央病院

所在地： 沖縄県豊見城市字上田25番地

TEL： 098-851-0501

病床数： 188床

研修実施責任者： 比嘉 盛丈

研修受入診療科： 緩和医療科、皮膚科

臨床研修協力施設

地方独立行政法人 那覇市立病院

所在地： 沖縄県那覇市古島2丁目31-1

TEL： 098-884-5111

病床数：470床

研修実施責任者： 外間 浩

研修受入診療科： 小児科、産婦人科、皮膚科

医療法人エイチ・エス・アール 名嘉村クリニック

所在地： 沖縄県浦添市伊祖4-2-1 201

TEL： 098-870-6600

病床数： 9床

研修実施責任者： 名嘉村 博

研修受入診療科： 地域医療

特定医療法人アガベ会 北中城若松病院

所在地： 沖縄県北中城村字大城311

TEL： 098-935-2277

病床数： 223床

研修実施責任者： 涌波 淳子

研修受入診療科： 地域医療

医療法人アガベ会 ファミリークリニックきたなかぐすく

所在地： 沖縄県北中城村字喜舎場360-1

TEL： 098-935-5517

研修実施責任者： 山入端 浩之

研修受入診療科： 地域医療

統合医療センター クリニックぎのわん

所在地： 沖縄県宜野湾市大山7-7-22

TEL： 098-890-1213

研修実施責任者： 天願 勇

研修受入診療科： 地域医療

医療法社団 平成会 とうま内科

所在地： 沖縄県西原町字幸地973番地3

TEL： 098-946-3799

病床数： 17床

研修実施責任者： 當間 茂樹

研修受入診療科： 地域医療

西平医院

所在地： 沖縄県宜野湾市赤道2-2-2

TEL： 098-896-1116

病床数： 2床

研修実施責任者： 西平 守樹

研修受入診療科： 地域医療

医療法人清心会 徳山クリニック

所在地： 沖縄県浦添市牧港2-46-12 メディカルプラザ牧港1階・2階

TEL： 098-942-1001

研修実施責任者： 徳山 清之

研修受入診療科： 地域医療

公立久米島病院

所在地： 沖縄県島尻郡久米島町字嘉手苅572番地3

TEL： 098-985-5555

病床数： 40床

研修実施責任者： 並木 宏文

研修受入診療科： 地域医療

薩摩川内市下甌手打診療所

所在地： 鹿児島県薩摩川内市下甌町手打956番地

TEL： 09969-7-0031

病床数： 19床

研修実施責任者： 室原 誉伶

研修受入診療科： 地域医療

医療法人徳洲会 沖永良部徳洲会病院

所在地： 鹿児島県大島郡知名町瀬利覚2208

TEL： 0997-93-3000

病床数： 132床

研修実施責任者： 玉榮 剛

研修受入診療科： 地域医療

医療法人祥杏会 おもろまちメディカルセンター

所在地： 沖縄県那覇市上之屋1-3-1

TEL： 098-867-2116

病床数： 154床

研修実施責任者： 久保田 徹

研修受入診療科： 内科、外科、麻酔科、脳神経外科、泌尿器科

医療法人鳥伝白川会 ドクターゴン診療所

所在地： 沖縄県宮古島市上野字宮国746番地17

TEL： 0980-76-2788

研修実施責任者： 泰川 恵吾

研修受入診療科： 地域医療

医療法人鳥伝白川会 ドクターゴン四島診療所

所在地： 沖縄県宮古島市平良字西里267

TEL： 0980-79-5164

研修実施責任者： 泰川 恵吾

研修受入診療科： 地域医療

稲福内科医院

所在地： 沖縄県浦添市字経塚633番地 メディカルKプラザ1階

TEL： 098-988-4556

研修実施責任者： 稲福 徹也

研修受入診療科： 神経内科

伊江村立診療所

所在地： 沖縄県国頭郡伊江村字東江前459

TEL： 0980-49-2054

研修実施責任者： 阿部 好弘

研修受入診療科： 地域医療

医療法人太陽会 かりまた内科医院

所在地： 沖縄県浦添市内間4-23-21

TEL： 098-878-5126

病床数： 6床

研修実施責任者： 狩俣 陽一

研修受入診療科： 内科

医療法人真成会 ゆずりは訪問診療所

所在地： 那覇市首里金城町3丁目32番地

TEL： 098-885-7001

研修実施責任者： 屋宜 亮兵

研修受入診療科： 地域医療

医療法人銀河 A zクリニック

所在地： 沖縄県那覇市奥武山町46 りゅうとうビル2F

TEL： 098-859-6789

病床数： 19床

研修実施責任者： 富原 匠

研修受入診療科： 整形外科